



愛知医科大学 医学部

時代の、一歩先へ。

AICHI
MEDICAL
UNIVERSITY
SCHOOL OF
MEDICINE
2020

時代の、 一歩先へ。



少子高齢化社会の到来やグローバル化の進展など、
現在、医療や医学教育を取り巻く環境は著しく変化しています。
そうした中、愛知医科大学医学部では、大規模なキャンパスの再整備や医学教育カリキュラムの改革など、
時代の一歩先を見据えた取り組みを積極的に推進。
高度で先進的な知識・技術の修得に留まらず、「情緒と品格を備えた真の医療人」を育成するために、
愛知医科大学医学部は、たえず進化を続けています。



是学 具眼考究

「具眼」とは、江戸中期の画家で近年脚光を浴びている伊藤若冲の言葉として知られていますが、「確かな眼」、「見通す眼」、「眼力」、「慧眼」といった意味であり、医学的には「正しくみる」ことを意味します。「みる」とは「診る」、「看る」、「見る」、「観る」、「視る」のすべてを含み、個々の患者の正確な病態とともに生物学的、心理学的、経済的、社会的なすべての視点に立った包括的、全人的に患者を把握する感性を意味します。さらに卓越した研究・教育それに大学の正しい未来の方向性の洞察には「具眼」が必要です。「考究」とは、「具眼」によって得た神髄を深く考え、それに対して正しく対処して究めることを指します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本学医学部のカリキュラムを修得し、卒業時に求められる能力を身につけることができる者として、次の能力を持つ者を求めています。

【求める学生像】

- 1 医学への強い志向と学習意欲を持つ人
- 2 医学を学ぶために必要な基礎学力と問題解決能力を備えた人
- 3 人間性と教養が豊かで、倫理的価値判断に優れた人
- 4 協調性を持ちコミュニケーション能力に富んだ人
- 5 誠実で常に努力を怠らない人

本学医学部が求める学生を受け入れるための入学者選抜は、次の方針により実施します。

- 1 医学部の学生として相応しい基礎的学力の到達度を確認するため、理科・数学・英語の筆記試験を実施します。
- 2 医師として求められる倫理的価値判断、感性、コミュニケーション能力などを判断するため、面接試験および小論文試験を実施します。

本学医学部の学生は、医師国家試験の合格という大きな目標の達成だけでなく、医師に相応しい教養や感性（情緒と品格）を持つことが求められます。入学者の選抜においては、基礎的学力のみでなく、思考力・表現力・学ぶ意欲・コミュニケーション能力なども重視します。また多様な学生の受け入れのため、一般入学試験のほかに国際バカロレア入学試験など多様な入学者選抜を実施します。

Contents

- 01 時代の、一歩先へ。
- 03 理事長メッセージ
- 04 学長メッセージ・沿革
- 05 愛知医科大学の特色
- 07 医学教育の、一歩先へ。
 - 初年次教育
- 08 実習体験
- 09 臨床教育
- 11 実習Report
- 12 学生による医学研究
- 13 医療の、一歩先へ。
 - 大学病院
- 15 わたしの、一歩先へ。
- 17 教育カリキュラム
- 19 愛知医科大学の6年間
- 21 1学年次カリキュラム
- 22 2学年次カリキュラム
- 23 3学年次カリキュラム
- 24 4学年次カリキュラム
- 25 5学年次カリキュラム
- 26 6学年次カリキュラム
- 27 国際交流
- 32 大学院医学研究科
- 33 学修施設
- 35 医師国家試験に向けて
- 36 全国で活躍する卒業生からメッセージ
- 37 キャンパスライフ
 - キャンパスカレンダー
- 38 キャンパスマップ
- 39 クラブ&サークル
- 41 エリアインフォメーション
- 43 マイキャンパスライフ
- 44 AMUトピックス
- 45 アクセス



理事長メッセージ

未来をひらく 新しい医科大学を目指して

理事長 祖父江 元

愛知医科大学は1972年に建学された比較的若い大学ですが、1980年度に大学院医学研究科、2000年度に看護学部、2004年度には大学院看護学研究科が設置され、2学部・2大学院研究科体制となりました。これまでの医学部卒業生は4,214名で、そのうち4,170名(99.0%)が医師になっており、また看護学部の卒業生総数は1,693名で、全国の病院などで看護師・保健師として活躍しています。

本学は、名古屋市東部に隣接する長久手市にあります。2005年に開催された万博「愛・地球博」の会場となり、近年では「住みよさランキング」がつねに全国上位に位置づけられる街として知られるようになってきました。緑豊かな自然を残しながらも近隣には便利施設も多く、学生生活を過ごす場所と

してはとても恵まれた環境にあるといえます。

愛知医科大学は建学以来、社会から評価され、選ばれる医科大学を目指して努力を重ねてきました。よき指導者による優れた教育、臨床、研究に加え、本学ならではの特色を打ち出す独自分野の構築にも積極的に取り組んできました。ドクターヘリもそのひとつで、教育・研究体制と大学病院の診療体制のいずれもが最高水準を維持できるよう努力を重ねてきました。

2007年から始まった建学40周年記念行事の一環として、次代を見据えた学園の環境整備に取り組んできました。保育所、新立体駐車場に加え、学生の学修の場である医心館が完成し、2014年5月には新しい大学病院が開院しました。また2017年からは、

「Student Doctor」として医療チームに参加する臨床実習生のための自主学習スペースが拡充され、5・6学年次生のみならず4学年次生にも専用のセミナー室が完備され、学修環境が大幅に向上しています。

現在の医学は大変なスピードで進化を続けています。また、医療を取り巻く環境も大きな変化を遂げつつあります。高齢化社会が進む中で地域との連携がこれまで以上に大切になるとともに、先進医療の進化も驚くほどのスピードで進んでいます。そうした時代の変化を見据え、次世代の医療を支える人材を育てていくことをわたしたちの大切な使命として、未来に生きる充実した医学教育環境を構築していきたいと考えています。

未来をしっかりと見つめ 人に寄りそう医療人を育てたい

学長 佐藤 啓二

愛知医科大学は1972年の建学以来、「時代の要請に応える良き臨床医を育てる」、「医療を通して地域社会に奉仕する」、さらには「発展途上国の進歩、向上に協力する」を基本精神として歩みを続けてきました。こうした建学の精神を、時代の変化に即して実現・実践しようと「具眼考究」という学是を打ち出しています。すなわち、医学的に正しくみた上で、それをもとに深く考え、正しく対処し究めることを大切にしようということを意味しています。

愛知医科大学は、まもなく建学から半世紀を迎えようとしています。「建学の精神」およびこれまでの取り組みの成果を踏まえた上で、建学100周年となる2072年までに本学をどのように成長させていくかを構想する「プロジェクト100」という取り組みを進めています。

その基本となるのは、未来に生きる医師をどのように育てていくかということです。高度化が進む医療の世界に

あっては、これまでの旧態依然とした医学教育を続けていては、これからの医学界で活躍できる人材を育てていくことはできません。そのため、大学院の改革も含めて、高度化が進み、早いスピードで進化を続ける新しい医療にしっかりと対応できる、「未来を切りひらく」医療人を育てていく体制づくりを進めていきたいと考えています。

医療の高度化に対応するとともに、高齢化社会の進展にも対応する「地域医療」をしっかり支えていける体制づくりも進めています。地域にあって幅広い分野の人々と交わることは、医学を学ぶ人たちにとっても貴重な学びの場になると考えています。

学生の自由を尊重するオープンな学風のもとで、未来の医療を支え、自らの力で切りひらいていきたいという、意欲あふれる人たちと出会いたいと思っています。



沿革

- 1971●12.25 愛知医科大学(医学部医学科)設置認可
- 1972●4.11 医学部第1回入学式
- 1974●5.30 新附属病院使用許可
- 9.9 高等看護学院設置認可 (1976.9.20 看護専門学校に改称)
- 1979●7.1 附属病院救命救急センター開設
- 1980●3.26 大学院医学研究科設置認可
- 1981●4.23 情報処理センター設置
- 1983●4.1 加齢医学研究所設置
- 4.20 メディカルクリニック開設許可
- 12.21 附属動物実験施設設置 (1988.4.1 動物実験センターに改称)
- 1987●10.1 運動療育センター設置
- 1988●4.1 視聴覚教材センター設置
核医学センター設置
研究機器センター設置
分子医科学研究所設置
- 1993●6.16 産業保健科学センター設置
- 1999●12.22 看護学部看護学科設置認可
- 2001●6.16 薬毒物分析センター設置
- 2002●1.1 学際的痛みセンター設置
- 4.26 看護専門学校廃止認可
- 2003●11.27 大学院看護学研究科設置認可
- 2004●4.1 医学教育センター設置
- 2008●4.1 総合医学研究機構設置
臨床試験センター設置
看護実践研究センター設置
- 2010●4.1 総合医学研究機構を改組 (動物実験センター、核医学センター、研究機器センター、臨床試験センターを同機構の部門として統合)
- 2012●1.4 長久手市市制施行に伴う 本法人所在地名地番の変更 (愛知県長久手市岩作雁又1番地1)
- 4.1 先端医学研究センター設置
- 2014●4.23 新病院(中央棟)使用許可
- 11.1 災害医療研究センター設置
- 2015●4.1 国際交流センター設置
シミュレーションセンター設置
- 2016●4.1 先端医学研究センター廃止
研究創出支援センター設置
- 2017●4.1 医学情報センター(図書館)廃止
情報処理センター廃止
総合学術情報センター設置

愛知医科大学の特色

カリキュラムから国際交流、大学病院まで、あらゆる面で教育環境の充実に力を注いでいます。

1 人が中心の医学教育

愛知医科大学医学部では1972年の開学以来、高度で先進的な知識や技術の修得に留まらず、ヒューマンズムに徹することのできる「情緒と品格を備えた医師」の育成を目指しています。

2 医学生としての意欲を高める初年次教育

入学直後から解剖学の講義をはじめ、後学期からは生理学、生化学を開講。早期から医学の専門領域の学びを開始することで医学への関心や学修意欲を高めます。またシミュレーション実習、看護体験実習、臨床科見学実習を順次実施し、医療人・医療のあり方を学びます。

⇒ P07

実践力を養う 臨床教育を重視

4学年次の10月から「Student Doctor」として診療参加型臨床実習（クリニカル・クラークシップA）を開始。より実習時間を増やすことで実践力を早期から養います。さらに「臨床実習入門」「基本手技・医療面接実習」といった準備教育も充実しています。

⇒ P09



4 総合学術情報センターや医心館など学修環境が充実

総合学術情報センターには、図書館やマルチメディア教室などを設置。また、医心館や本館セミナー室には、グループ学習や個人学習ができるスペースを確保するなど、様々な面から学ぶ意欲をバックアップする施設・設備が整っています。

⇒ P33



生物学 教授 武内 恒成

5 学生の研究を積極的にサポート

愛知医科大学では、多くの学生が教員の指導を受けながら医学研究に積極的に取り組んでいます。研究成果を学会で発表する際には、大学から交通費などを補助する制度も導入しています。

⇒ P12



6 5カ国6大学との国際交流

国際社会が求める医療改革への動きに的確に対応できる医師の育成を目指し、アメリカ、ドイツ、タイ、韓国、ポーランドの5カ国6大学への留学を支援しています。国際交流センターでは、留学生との交流や異文化理解を目的としたセミナーなども開催しています。

⇒ P27

7 総合的かつ高度な医療を学べる大学病院

愛知医科大学病院は、2014年に最新鋭の医療機器を導入した新病院を開院。中部地区屈指の大学病院として高度な医療を提供するとともに、学生にとって最先端の医療に触れられる学修の場として充実の教育環境を実現しています。

⇒ P13



8 愛知県内で唯一ドクターヘリを配備

愛知医科大学病院の高度救命救急センターには、愛知県内では唯一のドクターヘリを配備。救急医療専門の医師や看護師が迅速に出動できる体制を整えています。

⇒ P14

9 全国で活躍する4,200名以上の卒業生

開学以来、すでに4,200名以上の卒業生が全国で医師として活躍しています。地方出身者も多く、卒業後の同窓生同士の協力体制や地元医師会との関係が強固であることも愛知医科大学の魅力の一つです。

⇒ P36

医学生としての意欲を高める初年次教育



医学部と看護学部による合同授業

初年次教育

プロフェッショナリズム

時代が求める医療人を育成するために、プロフェッショナリズム1a・1bを開講。「質の高い医療（保健・予防活動を含む）ができる医師」「コミュニケーション能力に優れた医師」「適切な意思決定のできる医師」「マネジメント能力に優れた医師」「地域社会のリーダーシップがとれる医師」の育成を目指しています。「プロフェッショナリズム」は、医師としての態度やモチベーションを高めるための科目として、4学年次まで段階的に開講しています。



新入生研修 伴 信太郎 特命教授(医学教育センター)

プロフェッショナリズム1a(医療人入門)

自らが将来どのような医学生・医師になりたいかをイメージすることで、初年次から学ぶ意欲を高める「プロフェッショナリズム1a(医療人入門)」を開講。入学早々に行う新入生研修をはじめ、多彩なプログラムを通して「(1)知的な運用能力としてのスタディスキル」、「(2)円滑な人間関係やコミュニケーションのためのソーシャルスキル」、「(3)科学的な理解にもとづく自己の心身の健康保持のためのライフスキル」といった3つのスキルを修得できるよう取り組んでいます。

プロフェッショナリズム1b

「プロフェッショナリズム1b」では、医師として必要となる多様な価値観や、診療に対する姿勢を理解するとともに、模擬患者さんへの医療面接、基本的な臨床の手技や知識を修得。シミュレーションセンターでの実習も行う

など、より実践的に学べる機会を増やしました。さらに2018年度からは看護学部などと連携し、多職種との繋がりを学ぶIPE (Interprofessional Education)を導入。初年次から多職種連携について理解を深める授業も積極的に実施しています。

行動科学

医療人は単に病気をみるのではなく、「人を見ること」が大切です。「行動科学」では、心理学や神経科学、精神科学などの多様な分野を通して、人間の心や行動を科学的に理解する力を1学年次から身につけます。2学年次以降は、健康増進・疾病予防や、社会と医学の関係を考察するなど、社会医学的な観点から理解を深められるよう、より内容の充実を図っています。

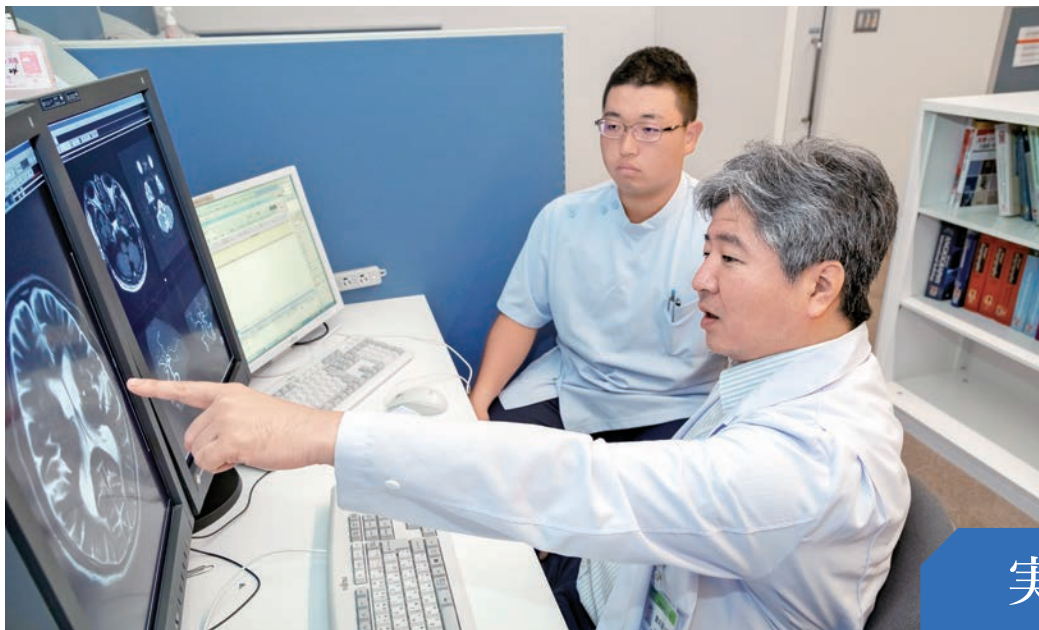
自分のためではなく、社会に貢献するという姿勢で勉強してください

座学中心の学習方法から、学生自身が積極的に学ぶ実習中心のアクティブ・ラーニングへと医学教育が大きく変わる中、教育カリキュラムを積極的に改革。1学年次から基礎医学系科目や多様な実習など、医学生としての自覚を高めるとともに、高学年次への繋がりを意識した授業を導入しています。医学部を目指す皆さんには、大学生になったら「自分のためではなく、社会に貢献するために勉強する」という意識と姿勢で取り組んでもらいたいと思います。



衛生学講座 教授 鈴木 孝太

1 学年次から医療の現場を体験



実習体験

1 学年次

早期体験実習

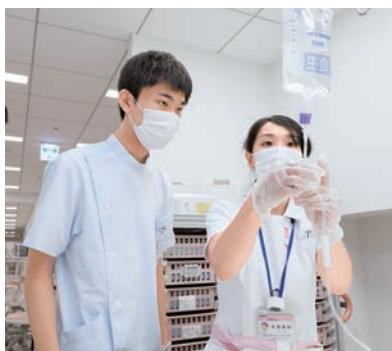
1 学年次から臨床の現場を体験できるよう、多様な実習を導入しています。

1a(シミュレーション実習)

グループ学習を通して、コミュニケーションやチーム活動、能動的学修の意義や基礎を理解します。早期から医療現場を体験するにあたり、様々な人、場面でのコミュニケーションについて考え、医学生としてふさわしいコミュニケーション方法を身につけます。

1b(看護体験実習)

病院は患者さんを中心にして、多数の医療スタッフが共同で仕事をしていることを理解し、多職種連携の病棟業務を体験することで、コミュニケーションの重要性、医師としての態度、今後必要な医学的知識・技能について確認します。



1c(臨床科見学実習)

臨床診療科・臨床医の指導のもとに医療を行う上での連携の理解を深めます。臨床医の患者さんへの対応や診断、検査などを体験し、早期に医師としての思考・人間性・倫理観を身につける契機とします。

2 学年次

外来案内実習

初診や再診時に診療がどのように行われ、どのような受診に関わる手続きが行われているのかを、医療者ではなく患者さんの視点から学びます。将来、医師になった時に、患者さんの気持ちに寄り添えるよう、受診時の患者さんの思いについて学びます。



チーム医療実習

チーム医療の一員として参加し、医師や他職種の業務を体験。保健・医療・福祉・介護分野など患者さんに関わるすべての人々の

役割を理解し、相互の尊重のもとに適切な行動をとることの重要性を学びます。

地域社会医学実習

障がい者の介護や救急医療の現場、働く人々の実態を体験することで、医師になる者としての自覚を高めるとともに、様々な人々の健康に関する悩みや苦しみを知り、地域社会における疾病予防、健康増進における医師の役割を理解します。

3 学年次

地域包括ケア実習

高齢者や在宅での介護が必要な人々の生活を知り、どのように支援すれば良いのかを知るために、老人保健施設や訪問看護ステーションなどの業務を体験します。患者さんや家族の思い、多職種の役割を学ぶことで、チーム医療の実際を理解します。

4 学年次

地域医療早期体験実習

大学病院以外の一般の地域医療機関において、どのような医療が実践されているのか、医師および医療スタッフの業務を体験。実習を通してクリニカル・クラークシップでの地域医療への準備をするとともに、地域医療への学修意欲向上の契機とします。

実践力を養う臨床教育を重視しています



臨床教育

Student Doctor

4学年次の8～9月に医療系大学間共用試験(CBT・OSCE)を実施。合格すると「Student Doctor」として認定。「Student Doctor」は、診療チームの一員として患者さんやご家族と直接触れ合いながら臨床実習を行います。



診療参加型臨床実習 (クリニカル・クラークシップA)

2017年度より、従来の見学型臨床実習(BSL)は診療参加型臨床実習(クリニカル・

クラークシップA(40週))へと変更。4学年次10月から全診療科で満遍なく臨床実習し、広い領域の基盤的経験を養います。

診療参加型臨床実習 (クリニカル・クラークシップB)

5学年次後学期からは、クリニカル・クラークシップB(32週)を実施。各4週間8クルの拡充した臨床実習を重要な診療科で行います。さらに深い知識と高い技能習得を目指した実習が可能になりました。

学外実習

クリニカル・クラークシップBにおける学外実習では、本学の協定病院である学外35病院のほか、新たに地域に密着した中小病院での地域医療実習も可能になりました。海外ではアメリカ・南イリノイ大学(SIU)医学部やタイ・コンケン大学医学部、

ポーランド・ウッチ医科大学など、学術国際交流協定を締結している大学での臨床実習も可能で、実習単位を認定しています。多様な臨床現場を経験することで、医療人としての視野を広げられる機会を増やしました。



「Student Doctor」から 「信頼して任せられる医師」へ

2019年9月の世界医学教育連盟(WFME)による医学教育分野別認証受審に向けて、積極的にカリキュラムを改革しました。「Student Doctor」として、従来の見学型ではなく、診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップ)を通して、知識・技能・プロフェッショナリズムを修得し、卒業時には「信頼して任せられる医師」として臨床研修がスタートできる医師の育成を目指しています。



外科学講座(血管外科) 教授 石橋 宏之

より充実した臨床実習を行うために



臨床教育

シミュレーションセンター



臨床技能の修得および向上を目的に、医学生ばかりでなく看護学生や研修医、スキルアップを目指す医師や看護師も利用できるシミュレーションセンターを開設。高機能の人体シミュレーターを用いた各種トレーニングや基本手技トレーニング、各診療科の協力に

よるOSCEに向けた実習など、実践的な教育の場として低学年次から高学年次まで積極的に活用しています。2019年6月には、従来の470㎡から700㎡へとスペースを拡大するなど、よりいっそうの充実を図っています。

コミュニケーション演習

主要な症候の診察に必要な知識を学修し、その内容を活かした模擬診察を実施。臨床の現場で求められる知識やコミュニケーション方法などを学びます。

臨床実習入門

臨床実習を行うにあたって、診察の進め方やカルテの記載、患者さんへの説明など、臨床医学の基幹となるための診療技能を身につけます。

基本手技・医療面接実習

診療参加型臨床実習の基礎となる、診療の基本的技術、態度を修得。シミュレーションセンターの充実により、さらに中身の濃い内容を実現しています。



患者さんの立場で医療を見つめるために



実習Report

地域包括ケア実習



Report

高齢者医療の 課題と重要性を 実感できました

4学年次 大本 夏光
(広島県 近畿大学附属広島高校出身)

瀬戸市の特別養護老人ホームで実習をさせていただきました。高齢者医療は医師として誰もが携わることであり、地域特有の制度など介護に関する知識は医療の知識と同じくらい必要だと実感しました。また他人事ではられない介護職の重要性や、自分が学んだ公衆衛生の知識の活かし方とその実態を知ることができ、大変考えさせられました。私は将来、地元に戻ることを視野に入れているので、介護福祉についてはいくらかでも知っておかなければならないと気づかされました。

ケニア地域医療実習(地域枠学生対象)

ケニアのHIV陽性患者診療関連施設や障がい児施設などで、患者および地域住民への医療提供、予防活動の実際を視察・体験します。社会的弱者や健康弱者への理解を深めることによって、地域医療、特に医療資源に恵まれない地域に住む人々にとってどのような医療活動が必要か、何を提供すれば地域社会が健康になるのかについての考察を深めます。さらに、学生ならではの視点から地域医療供給体制に対する新規の考察や提案がもたらされる可能性も期待されます。



左から、地域総合診療医学寄附講座 教授 宮田 靖志
4学年次 高橋 龍平、4学年次 山口 大輝



ガボンド村のHIV陽性児童教育施設での交流

Report

自分の視野や世界が広がりました

4学年次 高橋 龍平 (愛知県 東海高校出身)

今回は地域医療実習という名で参加しましたが、実際には地域医療だけでなく、感染症についても多くを学びました。また、孤児院やスラムなども見学させていただき、貴重な経験ができました。村の診療所では、今まで教科書で勉強してきた疾患ばかりでなく、日本ではほとんど見られない象皮症などの疾患も見学できました。実習によって自分の視野や世界が大きく広がりますので、ぜひ後輩の方にも参加してほしいと思います。

学生の研究を積極的にサポートしています



学生による医学研究

3学年次 大矢 祐輔(愛知県 半田高校出身) 第124回 日本解剖学会総会・全国学術集会にて研究成果を発表

Message

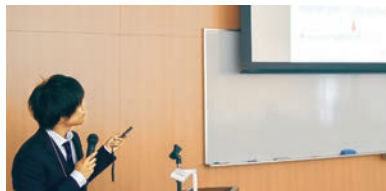
学生も優れた研究業績を挙げています

解剖学講座 教授 中野 隆

「学無止境」—学問には終止も境界も無い。これは、私の座右の銘であると同時に、解剖学講座の基本方針です。本講座では、1学年次から6学年次までの多くの学生が研究に励んでいます。その内容は特定の分野に留まることなく、肉眼解剖学、臨床解剖学、動物実験による分子生物学的研究など多岐にわたります。日本解剖学会や臨床解剖学会において毎年のように受賞し、医学雑誌に英文論文を発表するなど、本学学生による研究は学術的に高く評価されています。



第123回 日本解剖学会総会・全国学術集会 参加学生



学会発表

学会発表へのサポート制度を用意しています

本学には、最先端の研究機器や研究施設が整っており、多くの学生が教員の指導を受けながら医学研究に取り組んでいます。また、学生が学会で発表する際、大学から交通費の補助があります。研究内容が優秀であると学会が認めた場合、あるいは英文論文を発表するなど優れた研究業績があった場合、大学から表彰されます。

学生が発表した英文論文

Mitsuoka H et al.: Histological study on the left common iliac vein spur. *Annals Vascular Disease* 7:261-265, 2014

Takeuchi H, Takeda Y et al.: A rare congenital extrahepatic portosystemic shunt affecting the inferior mesenteric vein, inferior vena cava, and left ovarian vein. *Surgical Radiologic Anatomy* 36:729-732, 2014

Horai K, Furuya Y et al.: A case of pancake kidney with a single ureter in the retroperitoneal space. *Anatomical Science International*, 2018

近年の主な受賞例

学会における受賞は、延べ10回以上になります。2017年の日本解剖学会総会・全国学術集会では、「献体学術賞」と「学生セッション優秀発表賞」を受賞しました。ダブル受賞は、全国でも本学だけです。また、「献体学術賞」は37歳以下の若手研究者を対象とするもので、学生が受賞するのは異例のことですが、本学では3回目になります。

▶第114回日本解剖学会総会・全国学術集会(2009年)学生セッション最優秀賞 ▶第14回臨床解剖研究会(2010年)優秀賞 ▶第52回日本脈管学会(2011年)優秀賞 ▶第117回日本解剖学会総会・全国学術集会(2012年)献体学術賞(2演題) ▶第73回日本解剖学会中部支部学術集会(2013年)奨励賞(2演題) ▶第119回日本解剖学会総会・全国学術集会(2014年)献体学術賞 ▶第121回日本解剖学会総会・全国学術集会(2016年)優秀発表賞 ▶第122回日本解剖学会総会・全国学術集会(2017年)学生セッション優秀発表賞、献体学術賞

総合的かつ高度な医療を提供しています

大学病院



大学病院の特色

愛知医科大学病院は、2014年5月に最新鋭の医療機器を導入した新病院を開院。従来病棟と合わせて35の診療科および中央診療部などを有する、ベッド数900床の中部地区屈指の大学病院として、総合的かつ高度な医療を提供しています。大学病院は医学生にとって診察・手術の見学や症例検討などを行う大切な学修の場であり、充実した教育環境を実現しています。さらに大学卒業後の臨床研修では卒後臨床研修センターが核となり、研修医の育成・教育を、病院スタッフが総合的にサポートしています。

高度救命救急センター

本センターの役割は、関連医療機関との密接な連携によって一次・二次救急医療機関をバックアップする三次救急医療施設として、地域の重症患者に対して救急医療を提供することにあります。センター開設は1979年。他の医科大学・医学部に先駆けて設置し、地域に貢献してきました。1996年には、中部地区で初めて「指肢切断」「急性中毒」「広範囲熱傷」など特定の救急疾患に対して専門的

に治療を施すことができる「高度救命救急センター」として認定され、1998年には、三次救急専用の救急蘇生外傷治療室の増設、画像診断装置の増設を行いました。また2002年からはドクターヘリ事業も開始。さらに2006年には基幹災害拠点病院に、2011年には救急告示医療機関の指定を受けるなど、ますます充実した内容のセンターとして地域の期待がさらに高まっています。



ドクターヘリ

高度救命救急センターに、救急医療対応（ER）型ヘリコプターが常時待機し、主に消防機関からの要請を受けて、救急医療専門の医師・看護師が迅速に出動できる体制を整えています。現在の活動範囲は、愛知医科大学病院から半径70km圏内ですが、大災害発生時にはヘリコプターの機動性を如何なく発揮できるよう隣接各県（岐阜・三重・静岡・長野）のドクターヘリとも連携を図りながら、即応可能な体制を構築することとしています。

より充実した教育環境を 実現しています

多臓器疾患に対応できる、総合的な診療力を育成

超高齢社会においては、ひとりで多くの病気を抱えた高齢者が急増し、従来の臓器別・疾患別に特化した高度医療だけでは対応が困難になってきます。そのため、今後は多臓器にわたる複合疾患に対し、いかに適切な医療を提供していくかについて大学教育の段階から学ぶ必要があります。愛知医科大学病院ではプライマリケアセンターなどにより、臓器別・疾患別の枠を超えた総合的な視点を持つ総合診療医の育成に積極的に取り組んでいます。

一次から三次救急まで、幅広い診断能力を修得

愛知県内で唯一の高度救命救急センターでありドクターヘリの基地病院でもある愛知医科大学病院は、より重篤な救急患者さんへの対応力が身につくとともに、一次・二次救急を担うプライマリケアセンターが拡大整備されることで、一次から三次救急まで幅広い疾患についても学べます。さらに、近年注目されつつある放射性医薬品による治療と診断に最適な「半導体SPECT-CT装置」を東海地区で初めて導入。高度急性期医療を担う特定機能病院として専門分野を深く学べることはもちろん、広範な診断能力を修得できる環境が整っています。

高い効果を生み出す、教育用電子カルテ

大学病院では医師が入力する各科専用電子カルテを教育システムとしても活用できるよう整備を進めています。これが本格的に稼働すると本学の医学生、看護学生、研修医は専門医の診療経過を後追いし、典型的な疾患の診療内容について学ぶことができるようになります。さらに特殊な疾患を含む様々な症例に対する専門医の思考過程の記録は、貴重な診断ガイドとして高い教育効果を生み出すことが期待されています。



わたしの、一步先へ。

目指す「医師像」や目指す「医療のあり方」について、
在学生から研修医、医療の最前線で活躍する医師まで、幅広い方々に聞きました。



医療は大都市に住む人にも、過疎地域に住む人にも、
同じレベルで提供されなければならないと考えています。
将来は自ら医師不足に悩む過疎地域に赴き、
質の高い医療を提供するとともに、
患者さんの心に寄り添える医師になりたいです。

1学年次 大谷 太暉(愛知県 向陽高校出身)

癌は患者さんごとに異なる遺伝子が
傷つき発生する病気ですが、その全貌は未解明です。
そこで、患者さんごとに癌を個別化し、
研究室で適切な治療法を開発し、
その成果を1日も早く患者さんに還元できるよう、
基礎研究に取り組んでいます。

病理学講座 教授 笠井 謙次



限られた時間の中で一人ひとりの患者さんに対して
適切な診断、治療をするために、
患者さんが話しやすい状況を作り出すことができ、
患者さんに対して共感と傾聴の
姿勢を忘れない医師になりたいと
考えています。

5学年次 新武 諒亮
(京都府 洛星高校出身)



現在、初期臨床研修医として
大学病院で経験を積み重ねています。
将来、全身管理を的確に行える産婦人科医になるため、
2年間の臨床研修では、様々な診療科で様々な疾患を経験し、
日々勉強の毎日を過ごしています。

愛知医科大学 卒後臨床研修センター
臨床研修医 森下 優史(2019年卒業)



大学病院の先生にお願いして、手術や教授回診を何度も見学させていただきました。その経験が大学での勉強の意欲になっています。そのように先生方との距離が近く、実際の医療を身近に感じることができるのが愛知医科大学の良いところだと思います。将来は患者さんの心に寄り添った医療が提供できる医師になりたいです。

3学年次 北澤 秀平(愛知県 時習館高校出身)



月に6回程度の救急外来での診療では、様々な疾患の患者さんの診察を行います。夜間休日でも各診療科の医師が揃っているので、相談しやすい環境です。また、地域密着型の大学病院なので、一般的な内科疾患から珍しい疾患まで幅広く経験することができます。将来は自分の専門とする科だけでなく、全身を総合的に診られる医師になりたいと思い、研修に励んでいます。

愛知医科大学 卒後臨床研修センター
臨床研修医 小林 里帆(2018年卒業)



臨床実習において大切にしていることは患者さん自身の話を聴き、コミュニケーションを図ることです。診察所見や検査結果だけに着目するのではなく、実際に患者さんが何に苦しみ、どんな感情を抱いているのかを聴き、寄り添い信頼される医師になりたいと思っています。

6学年次 伊藤 千晴(愛知県 愛知高校出身)



患者さんは、病気や不安を抱えて病院を訪れます。謙虚に耳を傾け、愚直に最善を尽くす、そのために学び続ける。これが臨床医です。医療が高度に専門化しても、「心に寄り添う医療」の大切さは変わりません。

内科学講座(血液内科) 教授 高見 昭良

時代が求める良医の育成に取り組んでいます



医学部の教育理念

本学医学部の教育理念は、医学知識や技術の修得はもとより、医学を志す者として教養豊かな人間性を涵養することです。すなわち、建学の精神及び学是に基づいた科学的・倫理的判断力、社会貢献の自覚を養い、情緒と品格を兼ね備えた医療人を育成することです。

カリキュラム・ポリシー〔抜粋〕

医師に求められる知識・技能・態度を、段階的、スムーズに修得できるように講義および医療実習・臨床実習を1学年次から6学年次まで継続的、かつ、らせん状の学修方法にて積み重ねていきます。学修内容が真の効果的な学びとなるように講義は単なる一方向性の座学ではなく、教員との双方向性のやりとり、学生間の意見交換・議論などのアクティブ・ラーニングを6年間通して行います。また、6年間継続する医療実習および臨床実習では、常に、事前学習、実地体験、体験の振り返りのまとめとプレゼンテーションを行い、経験からの学びを深め、確実にそれらを身につけられるようにします。これらによって修得された学びは、医学的知識を評価する試験だけではなく、シミュレーションを使った技能の評価、振り返り記述や多職種を含めた多方面からの態度評価など、多面的・複合的な方法によって学修成果の達成度を明らかにします。

教育目標

本学医学部は、ヒューマニズムに徹し、医学・医療の社会的使命を進んで果たす医師を養成することを教育目標としています。現代社会は、医学の研究に豊かな思考力と創造性を発揮し、常に医学の進歩に対応しつつ、最新の知識、技能および態度を身につけることのできる医師又は医学者を求めています。本学医学部では、これらの要請に的確に対応するため、3つの教育目標を掲げています。

1. 将来の医学・医療の様々な分野に共通して必要な基本的知識、技能、態度を身につけ、生涯にわたる学修の基礎をつくります。
2. 自主性・創造性を身につけ、問題解決能力を高めます。そして、医学の進歩と、医療をめぐる社会情勢の変化に対応できる能力を涵養します。
3. 医療を予防・診断・治療から社会復帰までの包括的なものとして捉え、自然科学のみならず、その背景にある心理的・社会的諸問題をも含めて総合的に対応できる能力を涵養します。

医学部長メッセージ

未来の医療を自らひらく力を育てます

本学では、国際基準に合わせた教育体制の推進や臨床実習の充実など、大きな変化の時代を迎えている医学教育の流れを先取りした積極的な教育改革を推し進めてきました。入学後すぐに「臨床実習入門」などの準備教育を行うとともに、臨床と基礎医学教育を結びつけるような垂直統合の授業を進めるなど、積極的に新しい医学教育の取り組みを行っています。また、全人的な医療ができる医師を育てていくため、アクティブ・ラーニングなど学生が自ら積極的に学ぶ機会を充実させているほか、学生と教員との触れあいの場も設けて人間性豊かな「良き医師」を育てることに力を注いでいます。

「地域医療教育」にも力を入れているほか、看護学部などとも連携した「多職種連携教育」への取り組みも始めています。また、学生が学会発表する機会も増やし、次代を見据えた新しい医療を自らの力で切りひらいていく力を育てていきたいと考えています。

カリキュラムの特徴

本学医学部は、時代の要請に即した授業科目を取り入れ、6年間の一貫教育としてカリキュラムを編成しています。

低学年においては、一部の授業科目で少人数教育を取り入れて教員と学生との全人的接触を図っています。このことは、学生のコミュニケーション能力や問題解決能力を高めるとともに、自主性を伸ばすことにつながっています。

医学部では講義や実習を通じて、基礎医学から臨床医学まで幅広い分野にわたって知識を身につけることが求められます。将来医師として活躍するためには、知識だけではなく、実習を通じて医療従事者としての責任ある態度や価値観を身につけることが大切です。

このため、1学年次では本学大学病院での早期体験実習（シミュレーション実習、看護体験実習、臨床科見学実習）、2学年次では心身障がい者施設等での実習、3学年次では老人保健施設等での実習、4学年次では学外医療機関での地域医療早期体験実習を取り入れております。

また、1学年次において専門科目の解剖学、生理学、生化学を開講しています。このことは、医学生としての自覚と学習意欲を早い時期から高めることにつながっています。

モデル・コア・カリキュラムに対応した教育カリキュラムとなっており、臨床医学系科目では統合型の講義が行われています。

臨床実習では、近隣の医療機関の協力を得て、診療参加型のクリニカル・クラークシップも取り入れています。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

本学医学部では、建学の精神に基づき、新時代の医学知識と技術を身につけて科学的・倫理的判断能力および情緒と品格を兼ね備えた教養豊かな人間性を培い、地域社会に奉仕できる医師の養成を目指します。カリキュラム・ポリシーに沿ったカリキュラムを履修し、卒業時能力達成基準（コンピテンス、コンピテンシー）に定める項目を身につけた学生に卒業を認定し、学士（医学）の学位を授与します。

副学長・医学部長 若槻 明彦



良医になるための学びのステップ

医師という職業は、生涯にわたって自ら学ぶ姿勢が求められます。

自ら問題を発見して自ら問題を解決する能力を高めるため、少人数のグループに分かれて、与えられた課題について調査・討論を重ねるチュートリアル教育を一部で取り入れています。

また、信頼される医師になるには、何よりも患者さんや医療スタッフと良好なコミュニケーションを築く能力が必要です。そのため、1学年次からコミュニケーション能力を高める教育を行っています。

1 学年次

1 学年次は、人文・社会科学、自然科学、外国語などの科目を学び、幅広い教養を身につけるとともに、医学を学ぶための基礎を培います。少人数で行われる初年次医科学セミナーでは、各自が興味のある分野を選択し、演習・実験・実習を通して学びの技法(アカデミックスキル)を身につけます。プロフェッショナリズム1aでは、時代が求める「医療人」となるために、自分が将来どのような医学生・医師となるかをイメージし、本学で学ぶ意欲を高め、さらに知的運用能力としてのスタディスキル、円滑な人間関係のためのソーシャルスキル、また自己の心身の健康増進、疾病予防など日常生活のためのライフスキルを学修します。

プロフェッショナリズム1bでは、医師として社会の多様なニーズに対応できるようになるのみならず、多様なキャリアパスを展望できるようになるために、「医師として求められる基本的な資質・能力」である『プロフェッショナリズム』、『医学知識と問題対応能力』、『診療技能と患者ケア』、『コミュニケーション能力』、『チーム医療の実践』、『医療の質と安全の管理』、『社会における医療の実践』、『科学的探究心』、『生涯にわたって共に学ぶ姿勢』などについて概要を理解し、様々な医療専門職と議論をしながら学修します。

早期に臨床現場を体験するために、早期体験実習としてシミュレーション実習、看護体験実習、臨床科見学実習を行います。1学年次のうちから、解剖学、生理学、生化学など基礎医学系の科目を取り入れています。

2 学年次では、本格的に基礎医学系の科目が開講され、高学年次で学ぶ臨床医学と有機的に結びつく統合講義を取り入れ基本的知識を学修します。疾病の性状や病因について学ぶ病理学、薬物の作用とその生体反応について学ぶ薬理学を学修します。プロフェッショナリズム2では、医療面接に必要な基本的スキル、医学の各領域の代表的疾患の基本的病態・治療法、医療を行う上で関与している職種とその役割、チーム医療における医師の果たす役割、医師に求められる倫理規範などを学びます。社会的存在としての患者、患者をケアする医療チームのあり方を体験する地域社会医学実習、チーム医療実習および外来案内実習を行っています。

3 学年次

4 学年次

共用試験(CBT,OSCE)

3 学年次では、疫学、環境衛生、労働衛生といった各分野における社会と医学のかかわりを学ぶ公衆衛生学や衛生学などの社会医学を学修します。

本格的に臨床医学の講義が展開されます。検査医学、診断学を学び、臓器別に内科・外科を学びます。時代の要請に即した東洋医学、高齢医学、医療安全といった科目も開講されます。また、老人保健施設などの学外での体験実習を通して、高齢者の介護を体験し医療と介護の連携について理解を深めるとともに、医学生としての自覚を深めます。

4 学年次では、さらに医学知識を深めるため多く臨床医学の講義が行われます。地域医療総合医学では、地域医療実践のための総合診療、プライマリ・ケアおよび地域包括ケアについて学び、近隣の医院においてプライマリ・ケアの実際を見学します。基本手技・医療面接実習、臨床実習入門では、クリニカル・クラークシップに進むための基本的な技能・態度を修得します。8月～9月に実施される医療系大学間共用試験(CBT,OSCE)に合格した者には、10月の白衣式で「Student Doctor」の称号が与えられ、クリニカル・クラークシップが始まります。



基本手技・医療面接実習

新カリキュラムと共用試験

医学部では、医学教育モデル・コア・カリキュラムに対応したカリキュラムを採用。医療人となるための基礎を学ぶプロフェッショナリズム、自主学習法の体得、問題解決能力の養成を目指したアクティブ・ラーニングを開講。初年次から基礎医学を取り入れ、臨床実習は4・5・6学年次に実施。

また選択臨床実習・学外臨床実習も組み込み、診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップ)を充実させています。臨床実習を受けるためには、臨床実習開始前に全国の医科大学・大学医学部の学生を対象に行われる共用試験に合格する必要があります。共用試験にはコンピュータを用いた知識・問題解決能力を評価する客観試験(CBT)と態度・診察技能を評価する客観的臨床能力試験(OSCE)があり、4学年次に実施しています。



学年を越えて継続的にプロフェッショナリズム、行動科学教育にて医療人としての基本的価値観、資質、能力を修得します。
臨床実習教育前の低学年から実施している学内外での体験実習や見学実習の内容などをさらに充実させ、
最終学年まで学外での実習を取り入れます。共用試験合格後から開始される臨床実習については、全課程に診療参加型の臨床実習を導入します。



- 早期体験実習、専門科目(解剖学、生理学、生化学)を1学年次から取り入れている。
- 時代の要請に即した授業科目を取り入れている。
- プライマリ・ケアを始め幅広い領域に対応できる臨床実習を行っている。
- グループワークやプレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを取り入れている。
- 診療参加型臨床実習を行っている。

5 学年次

6 学年次

総合試験 Post-CC OSCE

卒業 → 医師国家試験 → 初期臨床研修

5 学年次は、4学年次から引き続き大学病院で診療参加型の臨床実習クリニカル・クラークシップを行います。実際に患者さんに接して、医師にふさわしい態度や技術を身につけます。11月以降は選択制のクリニカル・クラークシップになります。また、自己の学修レベルをチェックするため、医師国家試験形式による総合試験が年3回実施されます。

6 学年次では、5学年次から引き続き選択制のクリニカル・クラークシップを行い、学外の病院での臨床実習も行います。また、医師国家試験対策として模擬試験や集中講義を取り入れています。
卒業を認定するために、医学の知識を問う総合試験、臨床の技能・態度を問うPost-CC OSCEを実施します。



愛 知医科大学病院では2年間、学内のみで研修を行うプログラム、2年目に20週間を市中病院で研修するプログラム、小児科または産婦人科の専門診療に特化したプログラムのうち、いずれかを選択できます。

当院は、大学病院としての高度な専門医療ばかりでなく、名古屋市北東部に隣接する市町村の地域医療から広域にわたる三次救急をも担っているため、あらゆる分野の一次、二次救急症例を始め、一例報告に値する貴重な症例まで幅広く経験できる環境が整っています。当直体制は、研修医1年目を2年目の研修医が、2年目を専修医が、そして専修医を指導当直医が指導する屋根瓦方式を採っており、全ての救急患者を複数で診察する体制となっています。

卒後臨床研修センターではセンター長および専任教員を始めスタッフ一同がメンターの役割を担っており、安心・安全な研修のみならず、生活面も含めたキャリア形成支援を行っています。



初期臨床研修後の後期研修プログラム

日本専門医機構により、内科や外科を始めとする19診療科が基本診療領域に位置付けられました。当院も専門医資格の取得を前提とした専門研修プログラムを設置し、専門医制度に対応しています。さらに次の段階として、専門医取得者はSubspecialtyの学会専門認定を目指すことも可能です。
また、臨床医としての経験を積みながら大学院コースを履修し、博士の学位を取得する「社会人大学院」も設定しています。
なお、臨床系女性教員の特別短時間勤務の実施や保育所の開設、病児保育対応の実施など働きやすい環境が整備され、大学全体として専門医の育成をバックアップしています。



1 学年次 カリキュラム

幅広い教養を身につけるとともに
医学を学ぶための基礎を養う



医師である父が、日々医学の研究に真摯に向き合う姿を見て育ち、早くから医学に対する興味・関心を持っていました。また、幼い頃からアトピー性皮膚炎に悩まされ、小児科の先生にお世話になったことも、医学の道に歩みを進める後押しになりました。愛知医科大学を志望したのは、自分が生まれ育った愛知で、地域に根ざして医師としてのキャリアを磨いていきたいと思ったからです。また、アットホームで自由な学風のもと、幅広い人たちのつながりができると聞き、そんな点にも魅力を感じました。愛知医科大学では入学早々、解剖学をはじめ医学部としての専門的な授業が始まります。これまでの学校生活ではあまり感じる事ができなかった、学ぶことの面白さ、楽しさを感じながら、充実したキャンパスライフを過ごしたいと思います。

アットホームな学風のもと 幅広い学びを積み上げたい

1 学年次 岩下 倫之 (愛知県 南山高校出身)

Curriculum

■プロフェッショナリズム1a	■細胞生物学	■初年次医科学セミナー	■早期体験実習1b(看護体験実習)
■プロフェッショナリズム1b	■物理学実験	■自然科学演習	■早期体験実習1c(臨床科見学実習)
■アカデミックリテラシー	■化学実験	〈物理学、化学、生命科学・生物学から1つ選択〉	■スキルアップ演習
■医療のための情報学	■細胞生物学実習	----	----
■医用心理学	----	■リベラルアーツ	■解剖学1a
■行動科学1a	■医学英語1a	〈哲学と医療、経済と医療、文学と医療、	■解剖学1b
■行動科学1b	■医学英語1b	法学と医療、宗教と医療から2つ選択〉	----
■医療のための数学	----	----	■生理学1
■スポーツ科学	■第2外国語	----	----
----	〈ポルトガル語・中国語・韓国語・	■生命倫理	■生化学1
■医用物理学	ドイツ語から1つ選択〉	----	----
■生体分子の化学	----	■早期体験実習1a(シミュレーション実習)	■選択講座1

Pick Up Curriculum

■プロフェッショナリズム1a・1b

医師として社会に貢献するためには、社会が求める医学的知識・技術のみならず態度・価値観も修得しなければなりません。また、医学生が6年間の医学を修めるにあたり、医師となるための自覚や心構え、ライフスキルを身につけ、自学自習の習慣の確立を目指しています。医師としての心構え、多職種連携、医療倫理について学修し、医師という職業について学びます。

■初年次医科学セミナー

教員がチューターとなり、学生は少人数の学習グループに分かれて学修し、大学における自学自習のための学習法を自ら体験することで協調性を養います。また、自ら問題を発見し、学修し、解決する能力をトレーニングすることにより、大学生としての自学自習の能力を修得します。

■解剖学1a・1b

「医学知識と科学的探求」のため、生体の正常な構造や機能を理解し、

疾病の病因・病態・治療につながる基礎医学知識を学びます。また、実習を通して『コミュニケーション』と『プロフェッショナリズム』を修得します。「次世代の医学のため無報酬で自らの身体を提供する」献体の精神に学び、医の倫理を身につけます。人体の構造の美しさ、精巧さ、多様性を学び、医療人としての観察眼を養います。

■生化学1

「医学知識と科学的探究心」の理解のため、生化学の基礎である生体の代謝学を学び、そのことによって、疾病の病因と病態・治療につながる基礎医学的な要素の理解・説明にもつなげていきます。生化学の講義・実習で得た知識を基にして、将来診療で経験した病態の解析につながる学修を行います。疾患を含む全ての生命現象は基本物質の相互作用と代謝の上に成立していることを学びます。



これまでの学びで特に興味深かったのは解剖学の授業でした。1学年次から専門的で非常にハイレベルな内容を、わかりやすく、かつとても興味深く教えていただきました。専門的な授業を積み重ねていく中で、将来は法医学について深く学んでいきたいという思いが、より深くなってきたと感じています。また、早期体験実習では実際に医師や看護師の方について患者さんと接する機会を持てたことも、医学生としての学びを深めていく大きな機会になったと感じています。医療の現場で日々どんなことが行われているのかを間近で体験でき、自分自身が医師として今後どのような学びを進めていくべきか、具体的に考えることができました。これからもっと多くのことに挑戦し、医師として、より大きく成長していきたいと思っています。

医学について、より深く より幅広く学んでいきたい

2学年次 大須賀 弘子（愛知県 菊里高校出身）

Curriculum

- | | | | |
|-----------------|-----------|---------------|---------------|
| ■ プロフェッショナルリズム2 | ■ 生化学2 | ■ 統合講義(腫瘍学) | ■ 地域社会医学実習 |
| ---- | ■ 生化学実習 | ■ 統合講義(炎症学) | ---- |
| ■ 行動科学2 | ---- | ---- | ■ チーム医療実習 |
| ---- | ■ 薬理学 | ■ 微生物学・基礎感染症学 | ---- |
| ■ 医学英語2 | ■ 薬理学実習 | ■ 微生物学実習 | ■ 外来案内実習 |
| ---- | ---- | ---- | ---- |
| ■ 分子発生学 | ■ 分子病態学 | ■ 免疫学 | ■ コミュニケーション実習 |
| ---- | ---- | ■ 免疫学実習 | ---- |
| ■ 解剖学2(解剖実習) | ■ 病理学(総論) | ■ 寄生虫学 | ■ 選択講座2 |
| ---- | ■ 病理学(各論) | ■ 寄生虫学実習 | |
| ■ 生理学2 | ■ 病理学実習 | | |
| ■ 生理学実習 | | | |



生理学2

Pick Up Curriculum

■ プロフェッショナルリズム2

医師として社会の多様なニーズに対応できるようになるのみならず、多様なキャリアパスを展望できるようになるために、「医師として求められる基本的な資質・能力」である『プロフェッショナルリズム』、『医学知識と問題対応能力』、『診療技能と患者ケア』、『コミュニケーション能力』、『チーム医療の実践』、『医療の質と安全の管理』、『社会における医療の実践』、『科学的探究心』、『生涯にわたって共に学ぶ姿勢』についての理解を深め、医療専門職ならびに医療専門職以外の有識者と議論をしながら学修を進めます。

■ 生理学2

人体各種組織や器官、および器官系の正常機能、ならびにそれらの相互作用による生体協同や恒常性を理解し、疾病の病因・病態・治療につながる基礎医学的な要素を理解します。

生理学は生命現象を機能から追究する学問であって、論理的な思考・モデル

にもとづいて生命現象を理解・推論する分野です。各臓器系に特徴的な生理調節機構を理解し、恒常性維持機構の破綻から疾病へ至るしくみを理解する。さらに、病態下での生理現象についての理解を進めます。

■ 統合講義(腫瘍)

医学知識と科学的探究心の理解のため、特に腫瘍の病因、病態につながる基礎医学的な要素、社会医学的背景を学び、さらに腫瘍の症候と適切な治療選択の概要、チーム医療を理解します。腫瘍の基礎医学、社会医学から臨床医学までを俯瞰的に理解します。

■ チーム医療実習

「プロフェッショナルリズム:チーム医療」「コミュニケーション」を理解するために、チーム医療にその一員として参加し、医師の役割や他職種との役割を体験します。保健・医療・福祉・介護及び患者に関わる全ての人の役割を理解し、相互の尊重のもとに適切な行動をとることを学びます。



父が医師で、自分も幼少の頃から医師になりたいと思い、愛知医科大学に入学しました。2学年次からは基礎医学系の科目が増え、内容もより高度になってきました。特に印象に残った授業は、解剖実習です。臓器の位置や身体の一部がどう運動しているのかなど、人体のメカニズムを直接確認することができ、貴重な経験になりました。実習を通して「これから自分は医師になるんだ」という自覚も強く持つことができました。また病理学の講義では、疾病の症状や病因を知ることができ、臓器移植など新聞やニュースの内容についても、より理解が深まるようになりました。部活動は剣道部に所属していますが、医学部の勉強と部活動を両立する難しさを実感。3学年次からは覚えるべき知識量もさらに増えますので、効率良く勉強を進めて部活動や趣味も楽しみながら、充実した学生生活を送りたいと思っています。

実習を通して医学生としての 自覚が高まりました

3学年次 藤関 義晴（奈良県 奈良学園高校出身）

Curriculum

■プロフェッショナルリズム3 ---	■健康増進と疾病予防 ---	■循環器学 ---	■精神科学 ---	■婦人科学 ---	■リハビリテーション医学 ---
■医学英語3 ---	■地域包括ケア実習 ---	■呼吸器・アレルギー学 ---	■小児科学 ---	■放射線医学 ---	■症候学3 ---
■基礎医学セミナー ---	■EBM ---	■神経内科学 ---	■脳神経外科学 ---	■疼痛医療学 ---	■コミュニケーション演習3 ---
■衛生学 ---	■検査医学 ---	■内分泌・代謝・糖尿病学 ---	■整形外科学 ---	■医療安全 ---	■選択講座3 ---
■公衆衛生学 ---	■診断学 ---	■腎・膠原病学 ---	■泌尿器科学 ---	■東洋医学 ---	
■公衆衛生学実習 ---	■消化器学 ---	■血液・造血器学 ---	■産科学 ---	■高齢医学 ---	
■法医学 ---					

Pick Up Curriculum

■地域包括ケア実習

医師としての価値観・態度・姿勢を、実習施設の利用者や患者、その家族から醸成し、他職種との考えや役割を学ぶことで、チーム医療の実践を理解します。さらに、患者・家族医療チームメンバー・住民・社会との良好な関係を構築できること、プライマリ・ケアや、介護/ケアを含む様々な視点からの患者ケアの実践ができること、そして最終的に地域包括ケアの実践に参加できることを目指します。

■衛生学

特に産業保健、環境保健、母子保健、食品衛生、精神保健分野について、人の健康行動につながる要因について理解し、さらに、疾病・障害・健康問題と社会との関係や、社会における医療問題を説明できることを目指します。地域の医療状況、社会経済的状況を含めた特殊性や課題について説明できることを目標としています。健康や疾病が、生活・労働・教育の場での諸活動や地域環境、地球

環境と密接な関連を持っていることを具体的に学びます。医師は、疾病を治療するという働きのみではなく、人々がいきいきと生活できるよう、専門的な知識・技術を基盤とし、社会的諸関係に働きかけることを通じて職能を果たすべきことを学びます。

■基礎医学セミナー

「プロフェッショナルリズム:生涯学習」「医学知識と科学的探究心」を学ぶために、様々な分野から特定の課題を選択し、その課題について調査・研究を行います。医学の進歩は日進月歩であり、その膨大な情報から取捨選択しながら学ぶ必要があり、自ら考え、学び続ける一歩として本セミナーに取り組みます。

■血液・造血器学

血液・造血系の生理、病理、薬理を理解します。鑑別診断を含む血液疾患の症候、分子・遺伝子病態、診断、治療（造血幹細胞移植・輸血を含む）を理解します。



患者さんに慕われて感謝される内科医の父の姿や、未だに熱心に勉強する祖父の姿を見て、自分もそうした医師になりたいと思うようになりました。3学年次からは本格的に臨床医学の講義が始まりました。先生方が臨床の現場で活用する知識や技術について、自身の体験を交えながら教えてくださったことで、医師という職業をより身近に感じられるようになりました。また地域包括ケア実習では、主に看護師の方に同行して訪問看護の現場を見させていただきました。そこでは、自分が知っている病院とは違った医療のあり方や地域での医師の役割など、大変多くのことを学ばせていただき、医学生としての視野が広がりました。4学年次の後半からはいよいよ臨床実習が始まります。実際の臨床現場を通して、知識はもちろんのこと、コミュニケーション能力など教科書では得られない力を身につけていきたいと思っています。

教科書では得られない力を 臨床現場で身につけたい

4学年次 勝又 蒼穂（愛知県 明和高校出身）

Curriculum

■ プロフェッショナルリズム4 ---	■ 麻酔科学 ---	■ 地域医療早期体験実習 ---
■ 医学英語4 ---	■ 救急医学 ---	■ 臨床実習入門 ---
■ 医療と倫理 ---	■ 臨床感染症学 ---	■ 基本手技・医療面接実習 ---
■ 眼科学 ---	■ 臨床腫瘍・緩和医療学 ---	■ 共用試験(CBT,OSCE) ---
■ 耳鼻咽喉科学(口腔外科学) ---	■ 臨床遺伝学 ---	■ クリニカル・クラークシップA ---
■ 皮膚科学・形成外科学 ---	■ 地域医療総合医学 ---	



基本手技・医療面接実習



医療と倫理

Pick Up Curriculum

■ 医療と倫理

プロフェッショナルリズムにおける、特に倫理に関わる医師としての価値観・態度・姿勢を身につけることを目標としています。さらに、コミュニケーションにおける良好な関係構築のために個人レベル、社会レベルの様々な問題を知り、「医学的知識と科学的探究心」における医学、医療を取り巻く社会における様々な問題を知り、解決するための根拠を収集し、それらの根拠を客観的に評価した上で、解決へと結びつける方法論を学びます。まず、患者の基本的権利を熟知し、これらに関する現状の問題点を学びます。また、医療と医学研究における倫理の重要性を知り、その上で倫理的、法律的、社会的な問題を様々な立場、視点から多角的に考え、ディベートにより、それらの問題に対する医師としての判断をどのように導くか、論理的な思考力とコミュニケーションを身につけることを目的としています。

■ 地域医療総合医学

地域医療とは、対象とするコミュニティを特定し、そのニーズを明らかにし、その地域で包括的な医療を提供する医師として幅広い診療を提供するとともに、プライマリ・ヘルスケアの視点を持って地域全体の健康を目指して医療活動することです。地域医療実践のための総合診療、プライマリ・ケアおよび地域包括ケアについて学びます。

■ クリニカル・クラークシップA

「Student Doctor」の認定を受け、臨床実習を行います。学生が主体となり、患者さんとの関わりの中から臨床医学を学びます。従来型の見学主体ではなく、学生が研修医・指導医で構成される診療チームの一員として診療に参加し、指導医の監督のもと実際の診療を行います。単に教科書に記載された知識の理解だけでなく、基本的診療技能、臨床現場での推論の仕方、患者さん・コメディカルとのコミュニケーションなどを修得します。

「Student Doctor」として 医療チームに参加する



4学年次の後学期からは臨床実習が始まりました。大学病院の臨床の先生方は皆、私たちの「これが見てみたい、やってみたい」といった要望や希望に対して、貴重な時間を割いて丁寧に教えてくださり、実際に体験もさせていただきました。こうした実習での学びは、教科書で勉強したこと以上に強く記憶に残り、貴重な経験になりました。また、授業で学んできた各診療科の疾患に関する知識が臨床現場でより確かなものとなり、さらには別の診療科の疾患とリンクさせて考えられるようになりました。当面の課題は、患者さんとのコミュニケーションを円滑にするため、しっかりと信頼関係を築ける力を身につけることです。現在、内科に興味を持っていますが、今後の臨床実習や病院見学などを通して、自分にとって最適な診療科を選択できたらと考えています。そして学生の間に海外留学もぜひ経験したいです。

患者さんとの 信頼関係を築く力を高めたい

5学年次 越路 崇玄（岐阜県 大垣北高校出身）

Curriculum

- クリニカル・クラークシップ A
- クリニカル・クラークシップ B

Pick Up Curriculum

■ クリニカル・クラークシップ A、B
学生が主体となり、患者さんとの関わりの中から臨床医学を学びます。従来型の見学主体ではなく、学生が研修医・指導医で構成される診療チームの一員として診療に参加し、指導医の監督のもとに実際の診療を行います。単に教科書に記載された知識の理解だけでなく、

基本的診療技能、臨床現場での推論の仕方、患者さん・コメディカルとのコミュニケーションなどを修得します。クリニカル・クラークシップ Bでは、学生自ら選択する診療科で実習を行い、一部の期間には学外の協力病院を選択し実施しています。



医師国家試験に向けて 6年間の学びを総括する



臨床実習で難しいと感じたことは、患者さんへの問診や身体診察です。教科書で疾患の特徴的な症状や所見を学んでも、実際に患者さんを前にすると正常と異常を捉えることの難しさを実感しました。この経験から、患者さんに直接触れる機会を増やすことで、まずは正常を知り、そして変化や異常に気づくことを心がけるようになりました。最も印象に残っていることは、入院中の患者さんに新しく発生した血栓症を発見できたことです。すぐに先生に相談したところ、早期に治療が必要だと分かり、患者さんは無事に退院できました。先生や患者さんからもお礼を言われ、学生という立場でも医療チームの一員として、少しでもプラスになることができたという喜びと、医学を志して良かったと感じられた瞬間でした。今後は実習や国家試験の勉強を進めつつ、最後の学生生活を楽しく過ごしたいと思っています。

実習を通して 医学を志して良かったと感じた

6学年次 清水 冴枝（静岡県 浜松北高校出身）

Curriculum

- クリニカル・クラークシップB
- Post-CC OSCE
- 総合試験

Pick Up Curriculum

■ 総合試験

卒業を認定するための医学知識を問う試験です。医師国家試験と同じ形式で、医学全般にわたる幅広い知識が求められます。

■ Post-CC OSCE

卒業を認定するための技能試験です。模擬患者を前に模擬診察を行います。医療面接から始まり、患者への接し方や診察手技が正しく行えるかが問われます。



医師 国家試験

基礎医学・臨床医学・社会医学すべての医学関連科目が出題範囲であり、科目ごとの試験ではなく、すべての科目を取り混ぜた総合問題形式で2日間、計400題の選択肢問題で行われます。医師として知っておくべき内容を出題するとして、概ね4年に1度「医師国家試験出題基準」が改訂され、そこに挙がっている項目、疾患などを基本として出題されます。



国際交流

よりグローバルな視野を養うために

アメリカの南イリノイ大学 (SIU) 医学部との相互交流では、5学年次を対象に「臨床実習選択コース」、3・4学年次を対象に「SIU医学部2学年次カリキュラム受講コース」の2コースを用意しています。

さらに2011年度からはアメリカのみならず、ヨーロッパ、アジアへも目を向け、

世界各地の医療や医学教育の現場を体験できる機会を設けることを目的に、

ドイツのルール大学 (RUB) 医学部とタイのコンケン大学 (KKU) 医学部との国際交流をスタートし、グローバルな視野を養う場を提供しています。

加えて、2015年度には、新たに韓国の東亜大学校医科大学及びポーランドのウッチ医科大学と、

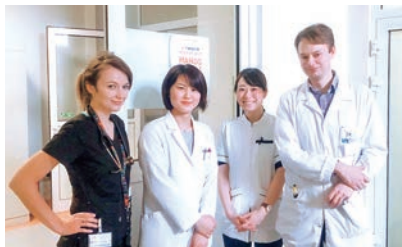
2017年度には、アメリカのバーモント大学と学術交流協定を締結し、

現在は計6大学の医学部と国際交流活動を広く展開しております。



★海外派遣者数

	南イリノイ大学		コンケン大学	ルール大学	ウッチ医科大学
	2学年次カリキュラム 受講コース	臨床実習 選択コース	臨床実習 選択コース		
2015年度	7	4	7	0	—
2016年度	7	3	4	1	—
2017年度	7	3	0	0	4
2018年度	7	3	0	2	4



国際交流センター長 Message



グローバルな 医療人を 目指してほしい

国際交流センター長
渡辺 秀人 教授

国際交流センターは、国際的視野を有する医療人の育成を目指しています。教員の海外派遣、外国人研究員の支援、教職員の語学能力の向上など、様々な事業に取り組み、学内外の活発な国際交流を行っています。なかでも学部学生の海外派遣事業は「世界の広さ」と「地球の小ささ」を同時に実感できる貴重な機会を学生に提供しています。世界共通の医療人としての資質・姿勢と地域ごとの医療の差異・特徴を学ぶことは人生の貴重な経験となり、将来の活躍の礎となるでしょう。

2017年度から
協定スタート!

新たな学術国際交流協定



アメリカ バーモント大学(UVM)医学部

本学では、さらなる国際交流の活性化を目指し、2017年11月、バーモント大学(アメリカ)と学術国際交流協定を締結し、学生交換を中心とした相互交流をスタートさせました。2018年4月には同大学医学部から2名の学生が、2019年4月には本学医学部学生1名が初めて同大学医学部へ短期留学しました。



留学生 Message

6学年次 椎原 眞 (鹿児島県 池田学園池田高校出身)

あなたもぜひチャレンジしてください

バーモント大学はパブリック・アイビーと称される格調高い大学のひとつに数えられ、合衆国においても7番目に設置された医学部です。この留学は愛知医科大学のみならず日本国内の他大学と合同で行われる外部実習の一環であり、アメリカの医学だけでなく我が国の医療についても学ぶことのできる貴重な機会でもありました。そして日本の医学部を経て、アメリカの大学・メディカルスクールを卒業しUSMLEに合格された、まさに日本とアメリカの医学教育を知り尽くした医師が所属しており、将来アメリカの地で医療を見据えている医学生にとってはまたとない機会であるといえます。もし仮にあなたが愛知医科大学の学生となるのでありましたら、ぜひともチャレンジしてみてください。きっと“Where there is a will, there is a way.”という諺を実感できることでしょう。



■UVM医学部臨床実習選択コース

6学年次に進級する学生を対象とした4週間の臨床実習選択コースへ参加する制度で、高度な医学英語力と臨床実習能力が要求されます。また、日本の他大学の医学部学生と共に実習することとなります。このコースへの参加は、本学で6学年次開講分の診療参加型臨床実習(クリニカル・クラクシップB)として認められます。





国際交流



アメリカ 南イリノイ大学(SIU)医学部

本学では、現在米国南イリノイ大学(SIU)医学部との学生交換を含む包括的な相互交流を行っています。2018年度には、医学部学生10名が留学しました。この学生交換プログラムは、2つのコースからなっています。それぞれ英語面接により医学英語力などを見て、留学生を決定します。留学時の宿泊費は大学が負担しています。(各年度の留学生の人数や留学期間により負担割合は変更します。)

■SIU医学部臨床実習選択コース

6学年次に進級する学生を対象とした8週間のSIU医学部の4学年次用(日本の6学年次に相当)臨床実習選択コースへ参加する制度で、高度な医学英語力と臨床実習能力が要求されます。2018年度は5学年次の2月から3月にかけて3名が留学しました。このコースへの参加は、本学で5学年次開講分の診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップB)として認められます。

■SIU医学部2学年次カリキュラム受講コース

主に3・4学年次の学生が対象となり、春休みの約3週間を利用して、SIU医学部の2年生カリキュラムを受講する制度です。SIU医学部2年生と共に問題解決型学習(PBL)、チュートリアル講義などに参加します。2018年度は、7名が留学しました。



留学生 Message

5学年次 桂山 雄一 (愛知県 名古屋高校出身)

勉強はもちろんのこと 楽しみもたくさんあります

2019年の3月9日から3月31日までの期間、南イリノイ大学のPBLコースに参加させていただきました。このコースでは、その名の通りPBLを主に行います。PBLというのは、Problem Based Learningの略称で、患者さんの症候をもとに問診、身体診察、検査を行っていく筋道を、鑑別疾患を挙げながら考えていくものです。簡単に言うと、医師の診察における考え方です。日本の医学教育では、考え方を勉強する機会とはほとんどありません。それをアメリカの医学部生と共に学べるというのが、このコースの最大の利点だと思います。アメリカの医学教育課程は日本と異なり、一般の4年制大学を卒業した後にメディカルスクールの入学試験を受け、4年間通う必要があります。南イリノイ大学はそのメディカルスクールにあたるので、学生の志はとて高く、彼らのそばで共に勉強できることはとても刺激的です。

南イリノイ大学は、イリノイ州スプリングフィールドという小さな町にあり、大都市シカゴまで鉄道で3時間の距離のところにあります。週末は大学が休みなので、遠出することができます。私たちは留学前から計画を立て、1週目にシカゴ、2週目にニューヨークに観光に行きました。

このプログラムは、春休みを利用して留学に行きます。春休みの貴重な時間を留学よりは遊びに使いたいと思っている方が多いと思いますが、この経験は学生のうちにしかできないものですし、勉強ばかりでなく楽しいこともたくさんあります。私も以前は留学に関して消極的でしたが、いざ行けることができて、とても良い経験になったと思っています。興味を持った方は、まず選抜試験に応募しましょう!



写真左端

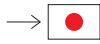




ドイツ ルール大学(RUB) 医学部

ドイツのルール大学医学部とは、2012年1月に学術国際交流協定を締結し、以来活発な相互交流が行われています。

同大学とは、学内サークルHIAMU (Heart in Aichi Medical University)を中心に、学生が主体的に交流活動を行っており、同大学の内科・外科などで、本学医学部学生が臨床実習を行っています。



留学生 Message

Rona Häring

Great experiences at AMU

I participated in an exchange program from my university in Germany, the Ruhr-University in Bochum and spend one month at Aichi Medical University in the gastroenterology department and it was a great experience. I learned a lot about the Japanese medical system and gastroenterology but also got to know many nice people, doctors and medical students, who made my time in Japan so wonderful. It is very interesting to learn about medicine within another culture and note similarities as well as differences and learn from each other. It is an amazing opportunity not only to learn medicine but also get to know the Japanese culture and traditions and I can really recommend everyone to get some clinical practice abroad as part of your medical study.



■RUB医学部臨床実習選択コース

6学年次に進級する学生を対象とした4週間の臨床実習選択コースへ参加する制度で、高度な医学英語力と臨床実習能力が要求されます。このコースへの参加は、本学で5学年次開講分の診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップB)として認められます。



タイ コンケン大学(KKU) 医学部

世界のあらゆる地域の医療や医学教育の現場を経験することを目指して国際交流を推進するため、タイのコンケンに位置するコンケン大学(KKU)医学部と、2011年11月に学術国際交流協定を締結し、積極的に学生等の交流を推進しています。2012年度に開始された学生等の交流も既に8年目となり、KKU医学部との関係は成熟し、2018年度については、KKU医学部からは学生5名、レジデント1名が短期留学しました。さらに、2019年4月には、医学部学生8名が同大学医学部へ短期留学しました。今後も、学生、若手医師、研究者と幅広い交流を予定しており、交流のますますの発展が期待できます。



留学生 Message

Soramon Chaichan

Wonderful time at AMU

Attending elective program in Otorhinolaryngology and Neurosurgery at AMU has considered to be one of my life changing experience. The hospital is very modern and well structured. The professors always tried to translate medical cases to me in English. They also integrated a hand-on experience in our training. I had a chance to observe the real cases and try performing the endovascular coiling for brain aneurysms in simulated plastic model myself. It was truly an eye opening experience. I would surely recommend the elective program at AMU to any medical students who wants to find inspiration for their future career path.



■KKU医学部臨床実習選択コース

6学年次に進級する学生を対象とした4週間の臨床実習選択コースへ参加する制度で、高度な医学英語力と臨床実習能力が要求されます。このコースへの参加は、本学で6学年次開講分の診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップB)として認められます。

Navaphon Limtaveechai

I really love this university!

I chose plastic surgery and chest surgery department. Professors and doctors here are so smart and willing to teach me in everything. They let me enter the operation and help them operate! I have seen so many kind of operation in plastic surgery department such as skin graft transplantation, cranial implantation, breast implantation and so on. In pulmonary surgery, The most interested thing is that they use Robot, Davinci, to operate lung cancer surgery. One thing that is the most important about this university for me is "friend". They always help me in everything. I think they were nice to me not because I was an exchange student but because they are nice people. So these people are the reason why I really love this university!



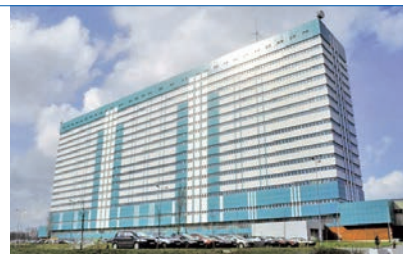
ポーランド ウッチ医科大学(MUL)医学部

ポーランドのウッチ医科大学とは、2016年2月に学術国際交流協定を締結し、学生交換を中心とした相互交流をスタートさせました。2018年度は医学部学生4名が同大学医学部へ、同大学医学部からは4名の学生が短期留学しました。
将来的には相互関係の範囲を拡大し、教職員などの交流に繋げていく予定です。

 →  留学生 Message 6学年次 関戸 彩子 (愛知県 南山高校出身)

滞在中はとても刺激的な毎日でした

ウッチ医科大学への留学では、病院内外での現地の医学生や他の留学生との交流を通して貴重な経験をすることができました。特に同年代の医学生の語学力や医学に対する積極性、自主性の高さにとっても驚きました。ポーランドの母国語はポーランド語ですが、医学生の多くは日常会話だけでなく医学英語も堪能で、実習中に英語を話さない患者さんや他職種の方との会話を通訳してもらった場面が多くありました。さらに、現地の医学生がそれぞれ興味のある診療科を積極的に勉強していたことが印象的です。例えば、休日に診察で用いる器具を学生同士で練習したり、実習に加えて自主的にカンファレンスや勉強会に参加したり、自主性の高さを感じました。ポーランド滞在中は言葉の壁や文化や医療の違いなど不安もありましたが、とても刺激的な毎日でした。そして、日本での自分自身の日常生活や病棟実習などについて改めて顧みる良い機会となりました。



MUL医学部臨床実習選択コース

6学年次に進級する学生を対象とした4週間の臨床実習選択コースへ参加する制度で、高度な医学英語力と臨床実習能力が要求されます。このコースへの参加は、本学で5学年次開講分の診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップB)として認められます。



写真右端

韓国 東亜大学校医科大学

愛知医科大学では、南イリノイ大学(アメリカ)を始め、複数の学術国際交流協定大学と学生の交流を中心に活発に国際交流を行ってきておりますが、2015年5月、東亜大学校医科大学(韓国)と医学生が交流できる大学として4大学目となる学術国際交流協定を締結しました。2016年度は同大学から研究者を受入れ、相互の国際的協力を促進する一助となりました。今後は学生の交流活動を含めたより良いプログラムの立案・実施に向けて引き続き協議していきます。



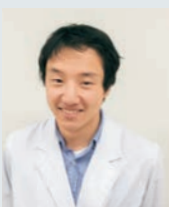
愛知医科大学では、学術国際交流協定を締結している大学のほか、より国際化に対応するため、協定大学以外からも留学生を受け入れています。

University of Otago
留学生 Message

Tatsuki Fujino

I spent 4 weeks at the hospital: 2 in Gastroenterological surgery, 2 in Cardiology. Whilst there I was able to get a good comparison between procedures here and back home. All of the staff and residents were great in facilitating this as they were all very kind and helpful and were always keen to include me wherever possible. They would explain things as they happened and provided interesting facts as they were often eager to share their knowledge of their practice and procedures, as well as specific health issues related to their specialty. Overall I definitely felt that I had a worthwhile 4 weeks here and I very much felt like I was included as part of the team.

どうもありがとうございました、皆さんお世話になりました!



Taipei Medical University
留学生 Message

Tzu Hsuan Tseng

Aichi Medical University Hospital gave me great first impression because the new hospital design was integrated with human nature and the digital hardware was also constructed. I felt comfortable doing my clinical observership in this hospital and explored freshness in the same time every day. I attended gastroenterological surgery and dermatology department in this month where doctors welcomed me with open arms and had passion for teaching and translating. They gave me many chances to train myself and review medical knowledge. Owing to their kindness and hard-working, I could benefit a lot from bedside round, surgery, lecture, outpatient department and conference. I enjoyed sharing differences of culture, medical education and health care system between Japan and my country with local Japanese students. I am thankful to Aichi Medical University Hospital for providing me this precious opportunity.





大学院医学研究科

これからの医療・医学界において リーダーシップを発揮できる研究者を養成します

大学院医学研究科(博士課程)の目的は、「国際水準の研究遂行能力を有する研究者を養成すること」です。

この医学研究科は、「基礎医学系」と「臨床医学系」の2つの専攻系から成ります。

「基礎医学系」は13の授業科目、「臨床医学系」は29の授業科目でそれぞれ構成しています。

各専門分野においては、高度で先端的研究を展開するとともに

国際的レベルの研究を行う能力を有する研究者の養成を目指しています。

このため、「基礎医学専門研究者養成」と「先端的臨床研究者養成」の2つのコースを設け、どちらか1つを選択してもらいます。

また、夜間にも授業を開講して、働きながら高度の研究能力を身につけようとする人を、

社会人学生として積極的に受け入れています。

■ 博士課程

専攻	授業科目			
基礎医学系	●解剖学	●分子医科学	●衛生学	●細胞生物学(生物学)
	●生理学	●病理学	●公衆衛生学	
臨床医学系	●生化学	●感染・免疫学	●法医学	
	●薬理学	●加齢医科学	●医学・医療教育学	
臨床医学系	●内科学	●睡眠医学	●麻酔科学	●緩和・支援医療学
	●精神科学	●外科学	●救命救急医学	●統合疼痛医学
	●小児科学	●脳神経外科学	●リハビリテーション医学	●災害医学
	●皮膚科学	●整形外科	●形成外科学	●戦略的先制統合医療・ 健康強化推進学
	●放射線医学	●泌尿器科学	●口腔外科学	●医療安全管理学
	●総合医学	●眼科学	●臨床感染症学	
	●医療薬学	●耳鼻咽喉科学	●新生児学	
	●輸血・細胞治療医学	●産婦人科学	●がん治療学	



生理学講座 教授 佐藤 元彦(写真 左端)



生化学講座 教授 細川 好孝(写真 右から2人目)



総合学術情報センター



総合学術情報センターでは、知の拠点として、様々な媒体の学術情報を蓄積し、利用できる場であり続けるとともに、学生がICTを利活用して「自ら学修し、自ら気づき、自ら成長する」拠点としても整備されています。センターには、図書館、マルチメディア教室など、学生の学修スタイルに合わせて学べる空間が広がっています。

図書館では、エントランスの吹き抜けにみられる開放的な空間設計を基本とし、閲覧席、個人ブース、利用者用パソコン、グループ学習室など、快適な学修環境を備えています。

館内の利用者端末や無線LAN接続により、電子ジャーナル・電子ブック（インターネットで閲覧する学術雑誌・書籍）や情報検索データベースにアクセスすることができます。

図書館利用ガイダンス、各種データベースや電子ジャーナルの利用講習会を通して、学生の情報リテラシー（活用能力）の養成にも精力的に取り組んでいます。

また、土日・祝日開館〔年間86日（2019年度予定）〕、地域住民への施設開放、近隣公共図書館との連携による健康支援事業（めりーらいん）の推進など、様々な学修支援にも積極的に取り組んでいます。

マルチメディア教室では、1人1台の端末（パソコン）を設置し、どの席からでも授業で使われる動画や画像の資料が見やすくなるよう、前方に大型スクリーン（100インチ）、

学生卓に小型モニター（17インチ）をそれぞれ設置しています。この教室の他にも、無線LANによるレイアウト自在の少人数セミナー室や、常時開放のオープン利用室には、個室感覚で端末（パソコン）を利用できるタイプと、グループ学習での利用ができるタイプがあります。用途に応じていつでも自由に利用できます。

ICTを活用し、eポートフォリオの作成、授業で使用した講義資料などがインターネットを使って復習できるシステムを提供

しています。また、レポート作成に使われる文書作成ソフト、医療現場で使われる医療英語（英単語・イディオム）を修得する英語学習ソフト、医学や看護学の統計解析に欠かせない専用処理ソフトなど、授業や自主学習、問題解決型学修（少人数で課題を達成していく学修手法）で活用できるソフトウェアを数多く用意しています。様々なご質問にはセンタースタッフが丁寧にお応えし、サポートします。



医心館



充実した学修環境を提供する「医心館」

大学本館に隣接する、グループ学習および個人学習のいずれにも対応した学修環境を持つ「医心館」は、主に医学部6学年次生および看護学部4学年次生が国家試験に向けてお互いにディスカッションできるグループ学習の場所として利用可能

な35室のセミナー室があるほか、個人ブースで学習できる視聴覚室があります。

セミナー室

国家試験合格に向けてグループ学習をするために、6学年次生が利用。4月から医師国家試験が終了するまでの期間、毎日7時～24時まで使用することができます。

国家試験に向けてお互いにディスカッションしながら学修することで学力の向上を図っています。

視聴覚室(個人ブース)

視聴覚室は3部屋あり、計36の個人ブースからなっており、学生が集中して学習できる場所となっています。

医学教育センター

医学教育センターは、医学教育に関する情報収集および分析、教員の教育評価システムの構築および教員のファカルティ・ディベロップメント(FD)の企画・実施などを行い、医学教育の改善・改革を図ることを目的としています。

センター(大学本館7階)には、教員室、会議室、学生スペースなどを備え、医学教育活動の拠点として活用されています。

こうした環境のもとで、本学に最適な教育・学修方法を教員と学生が一緒になって考えていきます。

主な活動としては、カリキュラム改革に向けての調査・研究、教員のFD、学修者評価の質、学修環境の充実、成績不振者に対する総合的な学修支援活動のみならず学修者のニーズに応じた潜在能力の開発支援などが挙げられます。

本館セミナー室

大学本館2階・3階のセミナー室は20室あります。主に3学年次までの学生が使用することができ、グループでのレポート作成やテスト前のグループ学習などのために使用されています。各室の収容人数は10名程度です。使用できる時間は8時30分～22時で、授業の空き時間や休日にも利用できる自習室の存在は貴重です。

大学本館7階は、医学部5学年次生が使用

するセミナー室が2室(グループ学習室:70席、個人ブース室:60席)および、医学部4学年次生が使用するセミナー室が1室(グループ学習:36席、個人ブース:14席)が整備されています。3部屋で計180名を収容するこの広大な学習スペースでは、主に臨床実習や講義終了後のグループ学習やレポート作成などに使用されています。



本学では各教室、セミナー室にWi-Fiを整備し、授業支援システムAIDLE-KというWEBを使って授業を行うeラーニングを実施しています。講義資料の閲覧、講義の予習や復習、アンケートの回収など幅広く利用されています。学生はパソコン、タブレットを用いて、この環境を積極的に活用しています。



医師国家試験に向けて

近年の医師国家試験では、臨床現場での的確な処理能力などが求められるようになり、より総合化した幅広い知識が必要になってきています。そのため、初年次から大学病院での体験実習を取り入れ、4学年次から6学年次までは臨床実習を実施しています。臨床実習は診療参加型の実習であり、5学年次後半からは実習する診療科を自ら選択でき、一部の期間は学外の病院を選ぶこともできるなど、臨床実習を重視したカリキュラムになっています。6学年次には、これら臨床実習の集大成となる臨床技能試験のPost-CC OSCEを実施し、総合的な医学知識を問う総合試験を実施しています。総合試験は医師国家試験と同じ形式で実施します。また、模擬試験や集中講義などの医師国家試験に向けたカリキュラムや、グループ学習を取り入れてグループごとに勉強会室を提供するなど、様々な面から万全の国家試験対策を実施しています。



視聴覚室（医心館）



総合学術情報センター（図書館）

国家試験対策委員長からメッセージ

最新の情報収集に努め 全員合格を目指しています

6学年次
春日 仁志（岐阜県 可児高校出身）



愛知医科大学では2017年から、先生と4～6学年次の学生で構成される「国家試験対策強化委員会」を設けています。医師国家試験突破に向けて、情報収集をはじめ様々な試験対策を検討していくと共に、臨床実習の準備や将来に向けてのキャリア形成などについても、学習機会の確保などに努めてきました。5学年次からは臨床実習と国家試験対策のための座学をリンクさせながら、お互いに助け合い、「全員合格」を目指して、頑張っています。

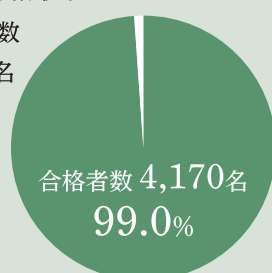
医師国家試験に高水準の合格率

本学部ではカリキュラムや学修環境の整備などによって学修効果を上げ、医師国家試験合格率が高い水準で安定することを目指します。

なお、現在までの卒業生全体4,214名のうち4,170名（99.0%）が国家試験に合格し、医師として活躍しています。

◆ 卒業生合格状況

卒業生総数
4,214名



◆ 医師国家試験合格状況

	新 卒		既 卒		全 体	
	合格者 受験者	合格率	合格者 受験者	合格率	合格者 受験者	合格率
第111回(2017年)	85 100	85.0%	7 13	53.8%	92 113	81.4%
第112回(2018年)	103 108	95.4%	14 21	66.7%	117 129	90.7%
第113回(2019年)	101 107	94.4%	3 11	27.3%	104 118	88.1%



約半世紀にわたって 充実の医学教育が受け継がれています

きしもと内科医院

岸本 邦弘 (1995年卒業)

5月1日、新しい天皇の即位にともない元号が平成から令和に代わりました。

私が愛知医科大学医学部に入学したのは、30年前の平成元年4月でした。平成のスタートの年を愛知医科大学で学ぶことができた私が、令和の年号初の入学を目指す受験生向けのメッセージを書く機会を与えられたことに因縁のようなものを感じます。

私の出身地は、沖縄県の宮古島市です。宮古島市は沖縄本島から約300km南西に位置し、大小6つの島で構成され、総面積は204km²、人口は約5万4千人です。島には大学がないため大学への進学を希望する者は、高校卒業と同時に島から出なければなりません。

先述したように私は平成元年に入学しましたが、入学時の年齢は28歳でした。琉球大学の医学部保健学科を卒業したものの医師になることをあきらめきれずに再チャレンジしての入学でした。

今でも思い出すのは入学のオリエンテーション当日に、カレンダーに卒業まで2190日と記載したことです。1年365日を6年間学び終えて1日でも早く医師の免許を取りたい、そのために必要な日数が2190日だったのです。それ

から毎晩残りの日数を1日ずつ減らしていきました。

入学生のおほとんどは高校卒業直後の方でしたが、40代で歯科医の経歴を持った方、学校の教員をしていた方もいて、多様性に富んでいたことも6年間を学ぶ中で心の大きな支えになりました。

また医師になりたいという共通の目標を持って入学してきた学生に対し、その志の炎を絶やさぬよう情熱をもって、倫理や医学教育をしていただいた多くの先生方の存在が目標達成に欠かせなかったのは言うまでもありません。

1972(昭和47)年4月に第1回入学式を入学者142名(女性8名)で開催した愛知医科大学は、2020年4月に新元号令和で49回目の入学式を迎えることになります。約半世紀に渡り受け継がれてきた医学教育への愛知医科大学の取り組みが充実していることは、昭和と平成の時代にこの大学で学び、現在全国の大学病院や民間病院、海外などで活躍している卒業生の存在からも窺い知ることができます。

令和の新時代に愛知医科大学への入学を目指す諸君！
今度は諸君がそのことを自らが実証して見せる番です。



平成21年にきしもと内科医院を開業しました。内科の中でも消化器を専門としていますので上部、下部の内視鏡、腹部超音波検査などによって診断や治療を行っています。胃がん、大腸がんの早期発見・早期治療のため年間500件の上部内視鏡検査、年間400件の下部消化管内視鏡検査を行っています。



宮古島市では以前からアルコールの大量飲酒にともなう健康被害が問題となっていますが、地区医師会の副会長として、地域の多くの関係機関と顔の見える連携をとりながら課題解決に向けて取り組んでいます。

CAMPUS LIFE

人としても大きく成長できる6年間



4

- 入学式
- 新入生ガイダンス
- 新入生研修 (1学年次)
- 前学期授業開始
- 定期健康診断
- コンケン大学短期留学 (6学年次)
- バーモント大学短期留学 (6学年次)
- 交通安全講習会

5

- 解剖慰霊祭
- 早期体験実習 [シミュレーション実習] (1学年次)

6

- 早期体験実習 [看護体験実習] (1学年次)

7

- 外来案内実習 (2学年次)
- Post-CC OSCE (6学年次)
- 夏季休業

8

- 夏季休業
- 共用試験CBT (4学年次)
- 西日本医科学生 総合体育大会

9

- 後学期授業開始 (1～3学年次)
- 早期体験実習 [臨床科見学実習] (1学年次)
- 地域包括ケア実習 (3学年次)
- 共用試験OSCE (4学年次)

10

- 防災訓練
- 地域医療早期体験実習 (4学年次)
- 後学期授業開始 (4・5・6学年次)
- 白衣式 (4学年次)
- 交通安全講習会

11

- 医大祭
- 後学期授業開始 (5学年次)

12

- 冬季休業

1

- チーム医療実習 (2学年次)

2

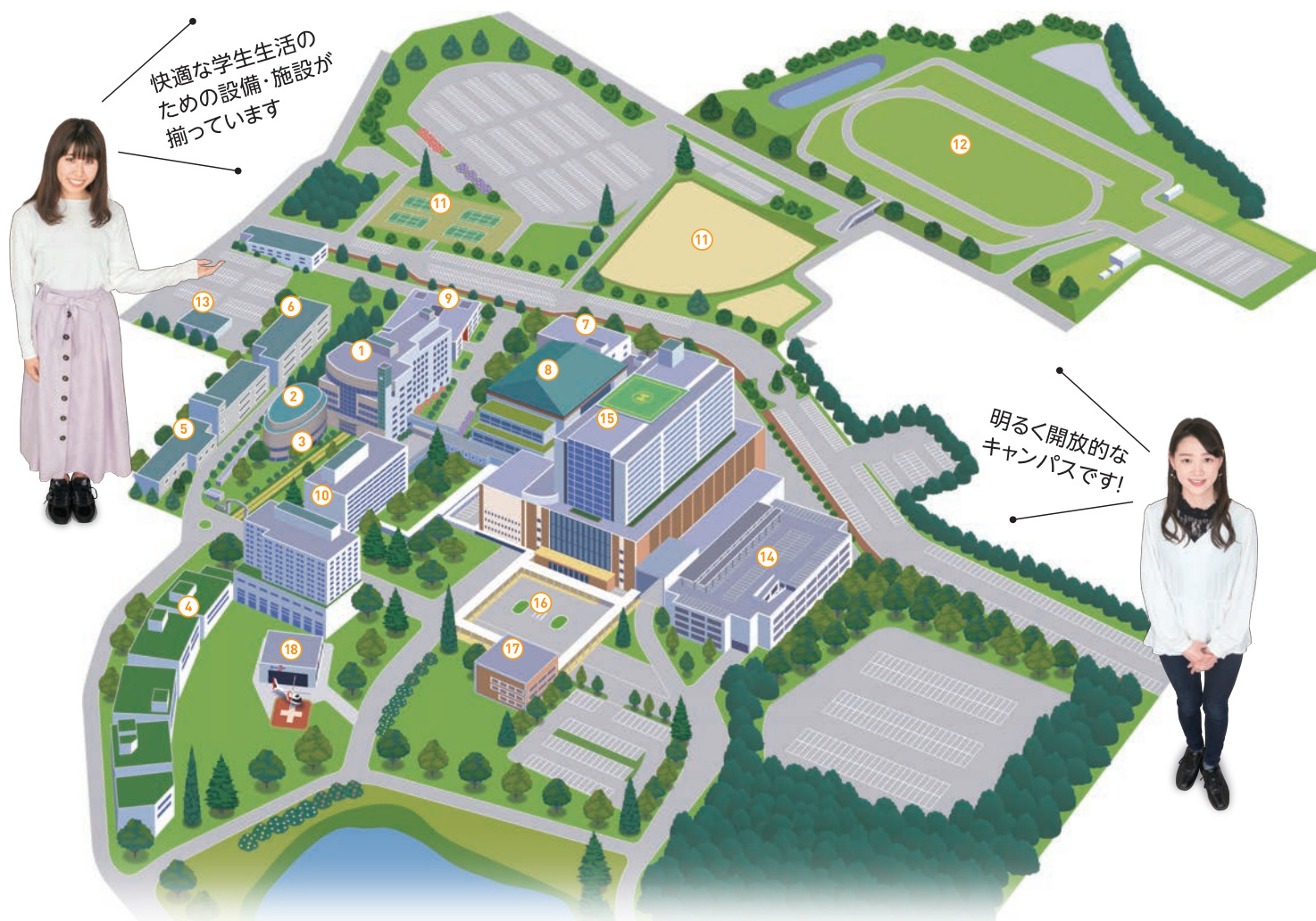
- 地域社会医学実習 (2学年次)
- 医師国家試験
- 南イリノイ大学短期留学 [臨床実習選択コース] (5学年次)
- ルール大学短期留学 (5学年次)
- ウッチ医科大学短期留学 (5学年次)

3

- 卒業証書・学位記授与式
- 医師国家試験合格発表
- 春季休業
- 南イリノイ大学短期留学 [2学年次カリキュラム受講コース] (3・4学年次)



CAMPUS MAP



快適な学生生活のための設備・施設が揃っています

明るく開放的なキャンパスです!

- | | | | |
|---------------|---------------------------|---------------------------------|---------------------|
| ① 1号館 (大学本館) | ⑦ 5号館
(総合実験研究棟・動物実験部門) | ⑪ 雁又グラウンド
(テニスコート・野球場) | ⑮ 中央棟 (診療棟・A病棟・B病棟) |
| ② たちばなホール | ⑧ 6号館
(体育館・運動療育センター) | ⑫ 寅山グラウンド
(陸上・サッカー・ラグビー・弓術場) | ⑯ バスロータリー |
| ③ レストランオレンジ | ⑨ 7号館 (医心館) | ⑬ 保育所 (アイキッズハウス) | ⑰ アメニティ棟 (立石プラザ) |
| ④ 2号館 (研究棟) | ⑩ C棟 (C病棟)・D棟 (D病棟) | ⑭ 病院外来駐車場 (立体) | ⑱ ドクターヘリ格納庫 |
| ⑤ 3号館 (基礎科学棟) | | | |
| ⑥ 4号館 (看護学部棟) | | | |



1号館 (大学本館)



たちばなホール



講義室



総合学術情報センター (図書館)



7号館 (医心館)



レストランオレンジ



6号館 (体育館)



6号館 (運動療育センター)

CLUB & CIRCLE

多くの学生がクラブ&サークルに所属しています

クラブ&サークル活動が盛んなことは、
愛知医科大学の伝統です。
学年を越えて趣味や興味を
共有できる仲間と出会い、
ともに熱中できる有意義な時間を
過ごせます。



クラブ&サークル一覧

- | | | | | | |
|---------------------------------|--------|--------|----------|------------|----------|
| ■アイスホッケー部 | ■軽音楽部 | ■硬式野球部 | ■水泳部 | ■ソフトテニス部 | ■バドミントン部 |
| ■ESS(English Speaking Society)部 | ■剣道部 | ■ゴルフ部 | ■スキー部 | ■東洋医学研究会 | ■バレーボール部 |
| ■弓術部(和弓・アーチェリー) | ■硬式庭球部 | ■サッカー部 | ■スノーボード部 | ■バスケットボール部 | ■ハンドボール部 |

TOPICS



「2019日本学生陸上競技個人選手権大会男子100m」で
高橋周治選手(医学部6学年次)が3位となりました。

日本陸上競技選手権大会 男子100m に3大会連続出場。
2016、2017年は2大会連続7位入賞、2018年は準決勝進出。



■ ボウリング部
■ ラグビーフットボール部
■ 陸上競技部



■ ワンダーフォーゲル部
■ HIAMU (Heart in Aichi Medical University)
■ 合気道部

■ ACSIS (Aichi Clinical Skill Improving Society)
■ アンサンブル同好会
■ 棋道同好会

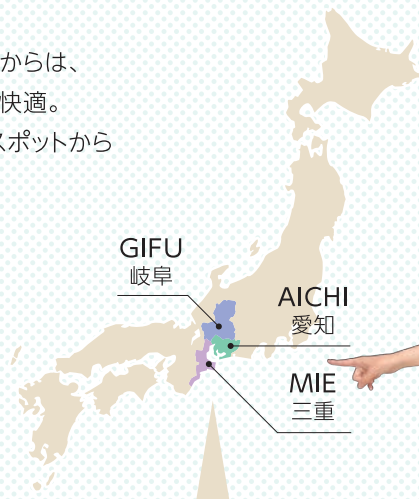


■ MSC (Medical Science Club)
■ 卓球同好会
■ 天文学同好会

AREA INFORMATION

東海3県の様々なエリアへ気軽に出かけられるロケーションです

キャンパスのある愛知県長久手市からは、隣接する名古屋市へのアクセスも快適。さらに、文化や歴史を感じる観光スポットからアミューズメント施設まで、東海3県の様々なエリアへ気軽に出かけられる便利なロケーションです。



東海3県は
魅力がいっぱい!

周辺エリア紹介



ナガシマスパーランド

ジェットコースターをはじめ、多種多様なアトラクションが揃う日本最大級の遊園地です。



鈴鹿サーキット

毎年、F1が開催される本格的なレーシングコースがあり、他にも遊園地やプール、キャンプも楽しめます。



伊勢神宮・おかげ横町

約2000年の歴史を有する伊勢神宮。おかげ横丁は食べ歩きやショッピングも充実。

GIFU
岐阜県



白川郷〈世界文化遺産〉

合掌造りの集落群は、世界文化遺産にも登録。昔ながらの農村風景が広がっています。



飛騨高山

江戸時代以来の城下町、商家町が今も残り、「飛騨の小京都」と呼ばれています。

愛知医科大学
愛知医科大学病院



名古屋城

尾張徳川家の居城として400年以上にわたって市民に親しまれている歴史的名所です。



ラグーナテンボス

エンターテインメントやショッピング、温泉などを満喫できる総合マリリゾートです。

リニア中央新幹線
名古屋ー品川間
2027年開業予定

県営名古屋空港



名古屋駅

名古屋市

長久手市

中部国際空港



MIE
三重県

AICHI
愛知県

キャンパスの周辺は
こんなところ

長久手エリア NAGAKUTE AREA

静かな環境ながら 多彩な便利施設がいっぱい

藤が丘・長久手周辺に続々と新しいお店が誕生。ますます活気づいてきました。学校帰りに買い物でもできアフタースクールも楽しめます！



▶ 愛・地球博記念公園 (モリコロパーク)

愛知万博長久手会場の跡地にオープンした総合公園。万博でも人気を集めたサツキとメイの家をはじめ、2022年秋には「ジブリパーク」も開業予定です。



▶ 藤が丘effe

藤が丘駅前の商業施設。「成城石井」や「スターバックスコーヒー」など各種食品・飲食店のほか、ヘアサロンもあります。



▶ トヨタ博物館

ガソリン自動車が誕生した19世紀末から20世紀の自動車の歴史を体系的に展示した自動車博物館です。



1学年次
黒崎 伊織
(兵庫県 灘高校出身)

自転車で通学できる場所で住宅を借り、学生生活を始めました。静かな住宅街ですが飲食店も多く、少し足を伸ばせば映画館もあるショッピングモールもあって、とても暮らしやすい場所だと思います。



リニモ(東部丘陵線)

磁気浮上式システムによる日本初の本格的な営業路線として開通。名古屋市の藤が丘駅と豊田市の八草駅を結んでいます。



「藤が丘」駅から
名鉄バスで約15分。
地下鉄東山線「藤が丘」駅から
愛知医科大学までは、
名鉄バスで約15分です。

愛知医科大学のある長久手市はどんな街？

東洋経済新聞社による「住みよさランキング」快適度部門では2016年まで4年連続で全国1位を獲得。大型商業施設も次々にOPEN。豊かな自然にも恵まれており、子育てを優しく支える環境がファミリー層からも人気の街です。こうした活気と安心に満ちた長久手の暮らしを愛知医科大学が支えています。



市民の平均年齢の若さ

全国
第1位
日本一若い街
38.6歳

人口増加率

全国第6位
第1位
(愛知県)

住みよさランキング2018 「総合評価」

全国第2位
第1位
(愛知県)

参考資料 ●市民の平均年齢・人口増加率(2015年国勢調査) ●住みよさランキング2018(東洋経済新聞社)

名古屋エリア NAGOYA AREA

2027年にリニア中央新幹線が開業予定 名古屋がますます便利に、快適に〈名古屋↔品川 40分〉

藤が丘から地下鉄東山線で名古屋の都心に直結。高層ビルが続々とオープンするなど、発展を続ける名古屋駅周辺や、デパート・ブランドショップが集結する栄などへのアクセスも便利です。



▶ JRゲートタワー

2017年4月、JR名古屋駅に直結する「JRセントラルタワーズ」の隣にオープン。ホテルやデパート、レストランなどの施設が揃っています。



▶ グローバルゲート

2017年10月、名古屋駅から南に1駅の、あおなみ線「ささしまライブ」駅前にオープン。商業施設やホテル、オフィスなどが入っています。



▶ レゴランド®・ジャパン

レゴランドが日本に初進出。40種類以上のアトラクションのほか、シアター、レストラン、ショップなどが揃っています。



1学年次
堀田 万理恵
(愛知県 愛知淑徳高校出身)

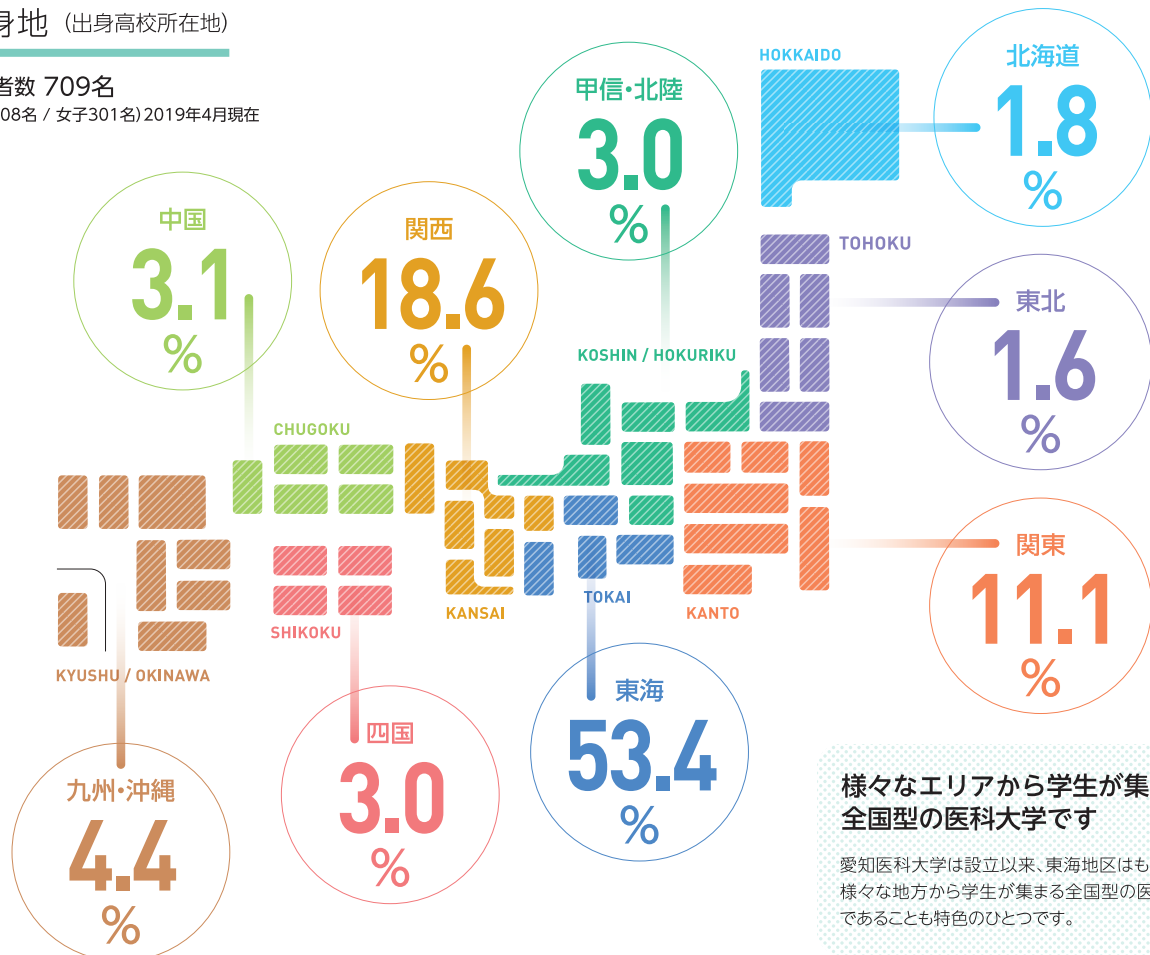
おしゃれな店がどんどん増えている名古屋駅周辺や、東山動植物園、名古屋港水族館、レゴランド®・ジャパンなど、名古屋市内には楽しく過ごせる場所がたくさんあります。海にも山にも行きやすく、休日にも楽しめますよ！

MY CAMPUS LIFE

愛知医大生の出身地

出身地（出身高校所在地）

在学者数 709名
(男子408名 / 女子301名) 2019年4月現在



from HOKKAIDO

一人暮らしは自立心が養える
良い経験になると思います



高校の先輩や兄も通っていたことから、
愛知医科大学に入学しました。
毎日の家事は大変ですが、
大学の友人のおかげで、家族と離れても
充実した生活ができています。

3学年次 森 明日華 (北海道 札幌大谷高校出身)

from SAITAMA

大学まで自転車で約 10 分
勉学にじっくり取り組める環境です



一人暮らしで身につくスキルは大きく、
自立の第一歩になります。
最初は不安かもしれませんが、
先輩や同級生も優しいので、
次第にのびのびと暮らせるようになります！

2学年次 武井 大伍 (埼玉県 熊谷高校出身)

from HIROSHIMA

意識して自分を律することが
必要だと実感できました



一人暮らしは食事がおろそかになったり、
休日はだらけがちになったりするので、
自分を律することが必要だと実感。
また両親への感謝の気持ちを
持つことができました。

3学年次 二神 竣 (広島県 修道高校出身)

from OKINAWA

栄や名古屋駅周辺への
買い物にも便利な立地です



沖縄・名古屋間は飛行機で直行便があり、
さらにセントレアから
藤が丘までは直通バスで1本。
帰省する時も思っていた以上に快適です。
藤が丘も、とても住みやすい街です。

3学年次 平良 にな (沖縄県 開邦高校出身)

愛知医大生の1日



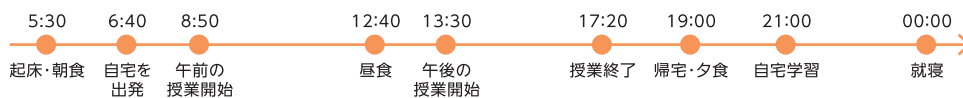
勉学に励むのに とても恵まれた環境です

低学年次から解剖学などの専門科目を学べたり、大学病院での実習を経験できたりと、医学生としての自覚を高められるカリキュラムに魅力を感じて入学しました。先生方はとても優しく、親身になって接してくださり、友人達も「ともに頑張ろう」という意識が強いので、勉学に励むのにとっても良い環境だと思います。今後は大学内の学びばかりでなく、社会にも目を向け、多くの経験を積みながら人間的にも成長していきたいです。

3学年次 有働 知佐子 (愛知県 岡崎高校出身)



3学年次からは、より高度で専門的な授業が増えてきました。覚えることも多くなり、勉強も大変ですが、興味深いことばかりで楽しく学んでいます。



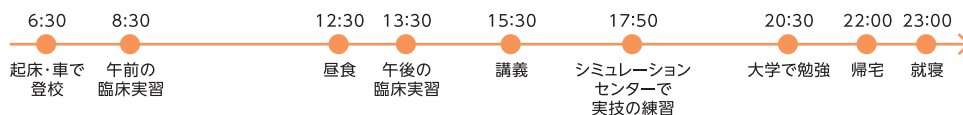
友だち同士で助け合って学ぶ 明るい学風が特長です

大学病院での臨床実習が始まり、とても忙しい毎日を過ごしています。幼い頃からの憧れであった医師の仕事に、「Student Doctor」として取り組めるようになり、とても充実した毎日を過ごしています。実習では患者さんを問診する機会もあり、最初は緊張しましたが、少しずつ医師となるステップを上っていきることが実感できるのがうれしいです。

5学年次 荻原 熙 (東京都 青山学院高等部出身)



シミュレーションセンターで、友だちと一緒に手技の練習をすることも。アットホームな学風のもと、勉強のことなどで悩んだりした時は、まわりの友だちが支えてくれます。



AMU TOPICS

愛知医科大学の、一歩先へ

THE世界大学ランキング日本版2019

教育リソース分野で13位に ランクイン

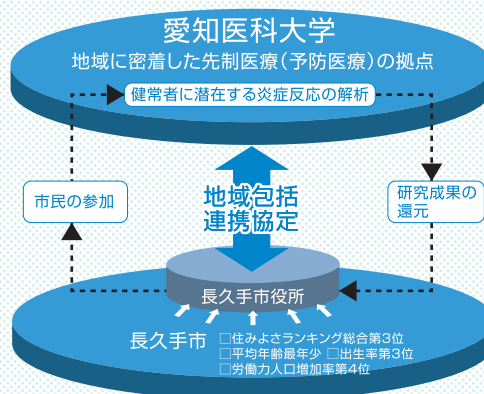
「THE世界大学ランキング日本版」とは、従来の大学ランキングでは見えにくかった「教育力」に着目し、日本の大学の真の実力を世界へ発信するものです。「教育リソース」「教育充実度」「教育成果」「国際性」の4分野・16項目で構成され、本学は「教育リソース」分野で13位にランクインしました。

順位 大学名

1 東京大学	11 九州大学
2 東京医科歯科大学	12 日本医科大学
3 京都大学	13 愛知医科大学
4 東北大学	14 北海道大学
5 浜松医科大学	14 筑波大学
6 札幌医科大学	16 豊田工業大学
7 大阪大学	：
8 名古屋大学	：
8 奈良県立医科大学	：
10 東京工業大学	：

私立大学研究ブランディング事業 に採択

文部科学省の2018年度「私立大学研究ブランディング事業」に本学が採択されました。同事業は、長久手市との親密な連携関係を基盤に、炎症に関する学内研究を推進して健康状態の客観的評価法を確立するとともに、コホート研究を展開。「健康維持・増進を支える次世代先制地域医療」システムを構築し、健康長寿社会の実現に貢献します。



キャンパス再整備が完了



愛知医科大学へのアクセス


 名古屋駅から[地下鉄 東山線]で「藤が丘」駅まで25分、
 
 名鉄バス乗車約15分。
 ( タクシーの場合、「藤が丘」駅から約10分。)



-  東名高速道路「名古屋I.C.」から約15分、または名古屋瀬戸道路「長久手I.C.」から約10分。
-  名古屋第二環状自動車道「本郷I.C.」から約15分。
-  東海環状自動車道「せと赤津I.C.」から約30分。





UNIVERSITY
ACCREDITED
2014.4~2021.3

財団法人大学基準協会
「大学基準適合認定」



愛知医科大学 医学部

〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1

TEL:0561-62-3311(代表)

0561-61-5314(直通)

FAX:0561-62-6690

URL <https://www.aichi-med-u.ac.jp/>